

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年6月26日
【事業年度】	第85期（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）
【会社名】	はごろもフーズ株式会社
【英訳名】	HAGOROMO FOODS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 溝口 康博
【本店の所在の場所】	静岡県静岡市清水区島崎町151番地
【電話番号】	(054)354-5000
【事務連絡者氏名】	常務取締役サービス本部長 後藤 佐恵子
【最寄りの連絡場所】	静岡県静岡市清水区島崎町151番地
【電話番号】	(054)354-5000
【事務連絡者氏名】	常務取締役サービス本部長 後藤 佐恵子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） はごろもフーズ株式会社東京支店 （東京都調布市小島町一丁目32番2号 京王調布小島町ビル） はごろもフーズ株式会社名古屋支店 （愛知県名古屋市中区新栄町二丁目9番地 スカイオアシス栄） はごろもフーズ株式会社大阪支店 （大阪府大阪市都島区片町二丁目2番48号 J E I 京橋ビル）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
決算年月	平成22年 3月	平成23年 3月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月
売上高 (千円)	80,733,005	78,366,501	76,624,290	73,371,650	73,185,922
経常利益又は経常損失() (千円)	3,482,097	1,907,567	146,972	1,087,601	981,216
当期純利益又は当期純損失() (千円)	2,151,159	640,190	68,793	2,601,148	2,582,929
包括利益 (千円)	-	517,234	1,108,044	1,820,117	417,356
純資産額 (千円)	22,989,830	23,066,847	21,774,066	19,670,182	19,563,232
総資産額 (千円)	45,000,383	46,182,176	49,419,626	47,369,515	43,193,206
1株当たり純資産額 (円)	1,120.23	1,125.44	1,156.11	1,044.46	1,038.92
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失() (円)	104.81	31.20	3.39	138.11	137.16
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	51.1	49.9	44.1	41.5	45.3
自己資本利益率 (%)	10.0	2.8	0.3	12.6	13.2
株価収益率 (倍)	10.3	38.2	-	-	7.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,406,218	1,303,785	643,331	1,152,623	216,661
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	523,390	1,990,367	3,289,224	1,056,397	3,581,249
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,028,606	432,884	2,659,359	110,407	3,434,090
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,129,726	874,490	886,800	872,361	802,718
従業員数 (名)	782	792	783	762	759
(外、平均臨時雇用者数)	(195)	(195)	(179)	(175)	(171)

(注) 1 売上高は消費税等は含みません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

3 第83期および第84期の株価収益率は、当期純損失のため記載していません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高 (千円)	68,248,881	71,386,732	75,573,862	71,914,692	71,606,431
経常利益又は経常損失() (千円)	2,897,023	2,200,210	172,488	1,006,998	1,045,223
当期純利益又は当期純損失() (千円)	1,679,995	1,027,854	33,706	1,819,161	2,518,255
資本金 (千円)	1,441,669	1,441,669	1,441,669	1,441,669	1,441,669
発行済株式総数 (千株)	20,650	20,650	20,650	20,650	20,650
純資産額 (千円)	22,129,178	22,629,501	21,407,703	20,036,375	19,827,194
総資産額 (千円)	41,858,139	44,725,306	49,167,254	48,331,293	43,963,913
1株当たり純資産額 (円)	1,078.29	1,104.10	1,136.66	1,063.91	1,052.93
1株当たり配当額 (円)	20.00	20.00	15.00	15.00	15.00
(内、1株当たり中間配当額)	(7.50)	(7.50)	(7.50)	(7.50)	(7.50)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失() (円)	81.85	50.09	1.66	96.59	133.72
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.9	50.6	43.5	41.5	45.1
自己資本利益率 (%)	8.0	4.6	0.2	8.8	12.6
株価収益率 (倍)	13.2	23.8	-	-	8.0
配当性向 (%)	24.4	39.9	-	-	11.2
従業員数 (名)	543	619	613	608	606

(注) 1 売上高は消費税等は含みません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

3 第81期の1株当たり配当額20円は、株式上場10周年記念配当5円を含みます。

4 第82期の1株当たり配当額20円は、創業80周年記念配当5円を含みます。

5 第82期に連結子会社である㈱マルアイから、食品販売に関する事業を譲り受けたことにより、売上高および従業員数が増加しています。

6 第83期および第84期の株価収益率、配当性向は、当期純損失のため記載していません。

2【沿革】

当社は、その源を漁業用縄卸売業等を営む後藤磯吉(初代)が、昭和6年5月鮪油漬缶詰事業を起こしたところにおきます。同事業は戦時下昭和17年10月に静岡県缶詰株式会社に統合されましたが、戦後同社の解散にともない、改めて缶詰製造事業を再開しました。

年月	沿革
昭和22年7月	静岡県清水市(現・静岡市)に株式会社清水屋を資本金350千円にて設立。
昭和22年8月	商号を後藤物産株式会社に変更。
昭和23年5月	商号を後藤物産罐詰株式会社に変更。
昭和25年3月	静岡県清水市(現・静岡市)に清水プラントを新設(平成18年12月、老朽化により閉鎖)。
昭和25年10月	商号を後藤罐詰株式会社に変更。
昭和26年2月	焼津食品合資会社・焼津水産缶詰株式会社を吸収合併。静岡県焼津市に焼津プラントを新設。
昭和29年4月	株式会社ジーケー西倉沢罐詰所を吸収合併。
昭和31年5月	東京営業所(現・東京支店)を開設。
昭和31年10月	後藤漁業株式会社を吸収合併。
昭和33年11月	鮪油漬缶詰類の製品名「シーチキン」を商標登録。
昭和36年7月	名古屋営業所(現・名古屋支店)を開設。
昭和37年3月	大阪営業所(現・大阪支店)を開設。
昭和37年10月	静岡県清水市(現・静岡市)にマカロニ類製造工場(パスタプラント)を新設。
昭和44年7月	商号をはごろも罐詰株式会社に変更。
昭和46年11月	株式会社東海倉庫、清水石油株式会社を吸収合併。
昭和51年11月	福島県福島市に東北はごろも株式会社を資本金10百万円にて設立。
昭和53年10月	静岡県焼津市にフィッシュエキス・フィッシュミール製造工場(現・バイオプラント)を新設。
昭和56年5月	志田食品株式会社、株式会社八重洲苑を吸収合併。
昭和62年7月	ペットフード販売のため子会社、株式会社シーエイディを資本金10百万円にて設立。
昭和62年9月	東北はごろも株式会社を吸収合併。
昭和62年12月	商号をはごろもフーズ株式会社に変更。
昭和63年3月	静岡県焼津市の焼津プラントを同市内に移転・新設。
昭和63年6月	タイ国バンコックにバンコック駐在員事務所を開設。
平成元年11月	米国ロサンゼルスにロサンゼルス駐在員事務所を開設(平成14年12月閉鎖)。
平成2年12月	物流体制強化のため子会社、セントラル物流株式会社(現・連結子会社 セントラルサービス株)を資本金10百万円にて設立。
平成3年10月	インドネシア国に鮪・鯉缶詰製造の合弁会社(P.T.アネカ・ツナ・インドネシア)を設立。
平成4年10月	東京都中央区に、はごろもビル竣工。特販部(現・フードサポートユニット)移転。
平成5年11月	静岡県清水市(現・静岡市)に新本社ビル(現・本社ビル)を建設。
平成8年7月	英国ロンドンにロンドン駐在員事務所を開設(平成25年4月閉鎖)。
平成10年4月	静岡県焼津市の焼津プラント内にチルドプラントを新設。
平成12年2月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成12年9月	静岡県焼津市に包装米飯製造工場(サンライズプラント)を新設。
平成13年3月	株式会社シーエイディを吸収合併。
平成17年4月	株式会社マルアイ(現・連結子会社)、マルアイ商事株式会社(現・連結子会社)、愛食興産株式会社(平成17年9月に株式会社マルアイと合併)の全株式を取得。
平成22年5月	株式会社マルアイ(現・連結子会社)の販売部門を、当社とマルアイ商事株式会社(現・連結子会社)に事業譲渡しグループの販売体制を再編。
平成24年1月	静岡県静岡市のパスタプラントを、閉鎖した清水プラント跡地に移転・新設し、富士山パスタプラントに名称変更。

3【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社3社および関連会社1社で構成され、食品事業を主な事業内容とし、他に不動産賃貸等の事業を行っています。

なお、当社グループは食品事業およびこの付帯事業の単一セグメントであり、セグメント情報を記載していないことから、事業部門別に記載しています。

当社グループの事業に係わる位置づけは次のとおりです。

食品事業：当社は、缶詰類・パスタ・包装米飯およびその他製品の製造販売を行っています。

子会社である㈱マルアイは、かつお削りぶし・海苔・ギフトセット等の製造委託先です。

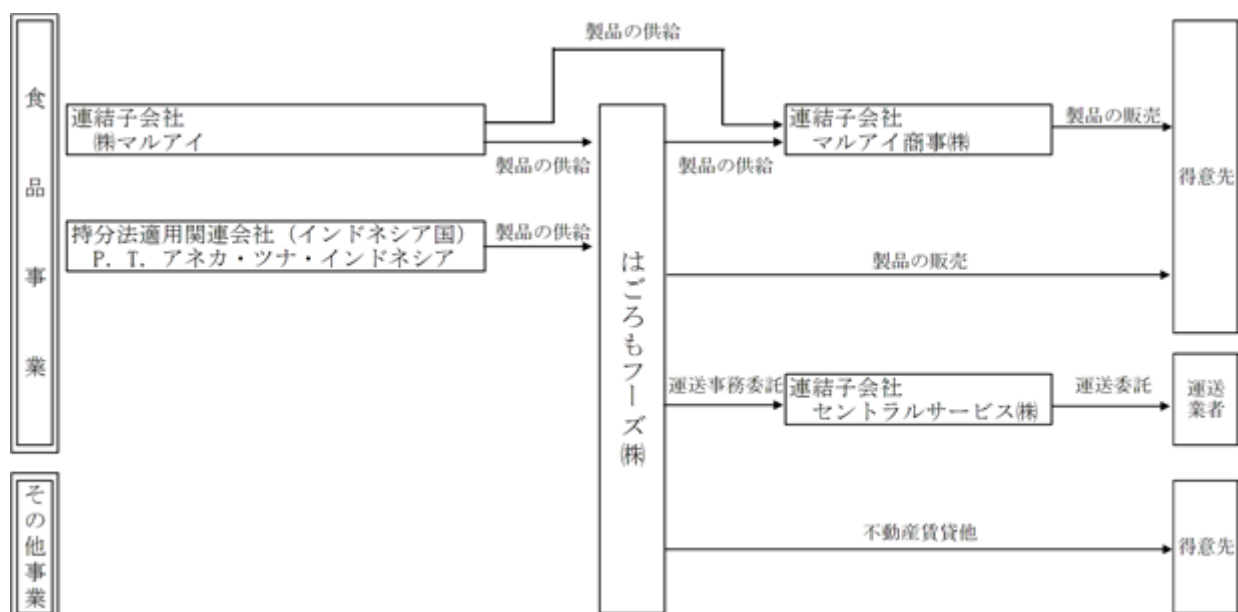
子会社であるマルアイ商事㈱は、ギフトセット等の販売を行っています。

子会社であるセントラルサービス㈱は、当社の物流業務のうち製品出荷手配および運送業者への運賃支払などの運送事務を行っています。

関連会社であるP.T. アネカ・ツナ・インドネシアはツナ製品等の製造委託先です。

その他事業：当社は、不動産賃貸他を行っています。

事業の系統図は次のとおりです。



4【関係会社の状況】

(1)連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(株)マルアイ (注)	名古屋市熱田区	96,000	削りぶし・味付海苔等の製造	100.0	製品の製造委託 役員の兼任等あり
マルアイ商事(株)	名古屋市熱田区	10,000	進物用品の製造販売	100.0	製品の供給 役員の兼任等あり
セントラルサービス(株)	静岡市清水区	20,000	運送業	100.0	運送事務委託 役員の兼任等あり

(注) 特定子会社に該当しています。

(2)持分法適用の関連会社

名称	住所	資本金 (千米ドル)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
P.T. アネカ・ツナ・インドネシア	インドネシア国	25,000	缶詰等の製造販売	33.0	製品の製造委託 役員の兼任等あり

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

セグメント情報を記載していないため、事業部門別の従業員数を示すと次のとおりです。

平成26年3月31日現在

事業の部門等の名称	従業員数(名)
営業部門	248 (5)
製造部門	367 (159)
管理部門	144 (7)
合計	759 (171)

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、アルバイト)は年間の平均人員を()内に外数で記載しています。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

	従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
職員	461	41.31	15.63	4,847,943
現業員	145	42.76	8.21	2,098,782
合計または平均	606	41.60	14.12	4,190,140

(注) 1 従業員数は就業人員です。
2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含みます。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されていませんが、労使関係は円満に推移しています。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による景気回復策や日銀の大規模な金融緩和などを背景に緩やかな回復基調となりました。食品業界においては、円安などにより原料やエネルギーコストの上昇が続き、これらを販売価格に転嫁するなど、販売環境に変化が見られ始めました。

当社グループは、コーポレートメッセージである「人と自然を、おいしくつなぐ」をテーマに企業活動に取り組みました。特に収益の改善を最優先課題とし、生産・販売一体となって、原料価格の高騰している「ツナ」製品等の値上げ、製造コスト・販売費の圧縮、一般管理費の削減等に努めました。

販売面では、「野菜をおいしくシーチキン」キャンペーン等を展開し、消費者の需要創造に努めました。10月に発生した「シーチキンマイルド」シリーズの自主回収の影響はありましたが、年度末にかけて消費税増税前の駆け込み需要があり、売上高は731億85百万円（前期比0.3%減）となりました。

利益面では、原料価格の上昇があったものの主力製品の値上げやコスト削減により、営業利益は3億64百万円（前期17億30百万円）、経常利益は9億81百万円（同10億87百万円）となりました。当期純利益は、投資有価証券の売却等により、25億82百万円（同26億1百万円）となりました。

なお、当社グループは、食品事業およびこの付帯事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の開示は行っていませんが、製品群別の販売動向は、以下のとおりです。

（単位：千円、％）

製品群			前連結会計年度		当連結会計年度		増減	
			金額	構成比	金額	構成比	金額	率
製品	家庭用食品	ツナ	30,883,568	42.1	30,227,269	41.3	656,298	2.1
		デザート	4,386,848	6.0	4,646,171	6.4	259,322	5.9
		パスタ&ソース	7,548,072	10.3	7,262,473	9.9	285,599	3.8
		総菜	6,882,915	9.4	6,920,219	9.5	37,304	0.5
		削りぶし・海苔・ふりかけ類	5,499,475	7.5	5,078,621	6.9	420,854	7.7
		ギフトセット・その他食品	4,154,857	5.6	3,976,897	5.4	177,959	4.3
		計	59,355,738	80.9	58,111,653	79.4	1,244,085	2.1
	業務用食品	11,535,659	15.7	12,485,828	17.1	950,169	8.2	
	ペットフード・バイオ他	1,910,758	2.6	1,975,321	2.7	64,563	3.4	
	計	72,802,156	99.2	72,572,803	99.2	229,352	0.3	
その他		569,494	0.8	613,118	0.8	43,624	7.7	
合計		73,371,650	100.0	73,185,922	100.0	185,728	0.3	

（注）1. 上記金額は消費税等を含みません。

2. 前期まで「ツナ」に計上していた一部製品を、当期より「総菜」に変更しました。前期についても、当該分1,056,546千円を「ツナ」から「総菜」に組み替えています。

3. 前期まで「ギフトセット・その他食品」に計上していた一部製品を、当期より「削りぶし・海苔・ふりかけ類」に変更しました。前期についても、当該分244,058千円を「ギフトセット・その他食品」から「削りぶし・海苔・ふりかけ類」に組み替えています。

「ツナ」では、「野菜をおいしくシーチキン」キャンペーンを基軸に、「人参しりしりシーチキン」のメニューを訴求、バック品を対象とした「ジャンボ宝くじプレゼント」キャンペーンの実施や、びんが鮪を原料とした期間限定の「一本釣り」シリーズの販売を強化しました。しかし「シーチキンマイルド」シリーズの自主回収の影響により販売促進の機会が減少し、売上高は前期比2.1%減少しました。

「デザート」では、円安による他社輸入品の減少で、主力の「朝から」シリーズやパウチ製品を中心に販売促進の機会が増加し、売上高は同5.9%増加しました。

「パスタ&ソース」では、メニューに特化した新製品「ナポリタンによく合うポポロスパ」等の販売促進をはかりましたが、主力製品の「サラスパ」等の販売が苦戦したことで、売上高は同3.8%減少しました。

「総菜」では、主力の「シャキッとコーン」が前期を下回る販売となりましたが、味や利便性が見直されたおかず・おつまみ缶詰や「健康」パウチシリーズの新製品等の販売数量が増加したことで、売上高は同0.5%増加しました。

「削りぶし・海苔・ふりかけ類」では、「サラダ専用」シリーズ・「かみきれ〜る」等の差別化製品の販売促進を強化しましたが、主に海苔製品等が他社の廉価販売の影響で、販売数量が減少し売上高は同7.7%減少しました。

「ギフトセット・その他食品」では、シニア層をメインターゲットにした「やんわかごはん」を中心に、包装米飯は堅調な販売となりましたが、ギフトセットの販売が苦戦し、売上高は同4.3%減少しました。

「業務用食品」では、大手CVS・外食ユーザーの新規メニューに採用された、ツナ・フルーツ・スイートコーンの販売が好調に推移したことにより、売上高は同8.2%増加しました。

「ペットフード・パイオ他」では、相場が上昇したフィッシュミールの販売が好調に推移したことにより、売上高は同3.4%増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、69百万円減少し、8億2百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動により減少した資金は2億16百万円となりました。これは、主に税金等調整前当期純利益が増加したものの、売上債権が増加したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動により増加した資金は35億81百万円となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出が増加したものの投資有価証券の売却および有形固定資産の売却による収入が増加したことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動により減少した資金は34億34百万円となりました。これは、主に短期借入金が増加したことによるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における製品群別生産実績は次のとおりです。

品目		金額(千円)	前期比(%)
家庭用食品	ツナ	32,185,286	3.5
	デザート	4,855,580	6.0
	パスタ&ソース	7,178,560	9.3
	総菜	6,982,343	15.3
	削りぶし・海苔・ふりかけ類	3,597,432	17.4
	ギフトセット・その他食品	3,223,612	27.1
	計	58,022,817	4.4
業務用食品		14,483,612	0.9
ペットフード・バイオ他		1,868,397	5.4
合計		74,374,826	3.4

- (注) 1 金額は販売価額で表示しています。
 2 生産実績には外注仕入実績を含みます。
 3 上記金額は消費税等を含みません。

(2) 受注状況

当社グループは受注生産を行っていません。

(3) 販売実績

当社グループは主として卸売業者に販売しています。当連結会計年度の販売実績は次のとおりです。

品目		金額(千円)	前期比(%)	
製品	家庭用食品	ツナ	30,227,269	2.1
		デザート	4,646,171	5.9
		パスタ&ソース	7,262,473	3.8
		総菜	6,920,219	0.5
		削りぶし・海苔・ふりかけ類	5,078,621	7.7
		ギフトセット・その他食品	3,976,897	4.3
		計	58,111,653	2.1
	業務用食品		12,485,828	8.2
	ペットフード・バイオ他		1,975,321	3.4
	計		72,572,803	0.3
その他		613,118	7.7	
合計		73,185,922	0.3	

- (注) 1 上記金額は消費税等を含みません。

2 主な相手先別の販売実績および総販売実績に対する割合は、次のとおりです。

相手先	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
伊藤忠商事(株)	21,312,868	29.0	23,040,497	31.5
三菱商事(株)	13,999,568	19.1	13,637,792	18.6
三井物産(株)	13,202,353	18.0	11,756,938	16.1

3 【対処すべき課題】

当社グループは、「新たな価値や楽しみ、製品やサービスの信頼性」を提供し、消費者をはじめとするステークホルダーに選ばれ続けるために、以下の課題に取り組みます。

また、今期は引き続き本格的な業績回復に向け、製品コストの一層の低減や販売奨励金の効果的な使用、さらに業務の効率化・合理化などローコストオペレーションに取り組みます。

ブランド力の強化による企業価値の向上

製品の安心・安全につきましては、製造委託先を含めハード・ソフト両面での品質保証体制の一層の強化やフードディフェンス体制の構築をはかります。これらを着実に実現し、お客様から信頼される「はごろも」ブランドを再構築します。

既存事業の深耕と収益力の回復

既存製品の需要の拡大と販売奨励金の削減を進める一方で、原価低減の取り組みを推進します。組織面では、本年4月より機能別組織から製販と製品開発が一体化したユニット制を導入、市場環境・経営環境の変化に的確に対応し、収益力の回復をはかります。

新事業・新製品の積極的な開発

少子高齢・人口減少など市場環境が大きく変化するなかで、お客様のニーズを的確に把握し、次代の事業の柱となるような新事業・新製品の開発・育成に取り組みます。

人財の戦略的育成

経営環境が大きく変化する中で、前述の課題を解決するために必要な資質・能力・マインドを持った人財の開発・育成に取り組みます。

環境への取り組み

地球に感謝する心を持って、生産・物流・販売促進に取り組みます。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 主原料の価格変動について

当社グループの主力製品であるツナ製品の主原料は、まぐろ・かつおです。また、パスタ製品の主原料はデュラム小麦粉です。これらは天産物ゆえに漁獲量や収穫量が増減します。また、世界的な需要拡大や資源問題により新たな漁獲規制や輸出規制等が発生する事態も予想されます。これらにより市場価格が変動し、当社グループの売上総利益に影響を与えます。

(2) 為替変動について

当社グループは製品・半製品の一部を海外協力工場より仕入れています。また、前処理済み原料を含む魚の一部も海外より仕入れています。これらは、為替相場により仕入価格が変動するため、当社グループの売上総利益に影響を与えます。

(3) 自然災害・疫病について

地震・洪水等の自然災害ないしは疫病の大流行により、当社グループの本社・工場・製造委託先の協力工場、ならびに資材供給元に非常事態が発生し、操業を停止せざるを得ない事態に至ることが懸念されます。

とくに、当社グループの本社・工場が立地する静岡県・愛知県には、東海・東南海地震の発生が予想されています。当社グループにおいては、この地震を想定し、従業員の安全確保、中核事業の早期復旧を行う事業継続計画を策定しています。しかしながら、交通・通信・ライフライン等の社会基盤の被災も予想され、企業活動の遂行に支障が生じる懸念があります。

(4) 食品の安心・安全問題について

ここ数年食品業界においては、鳥インフルエンザ、残留農薬問題、放射能問題等、食品の品質や安全性が疑われる問題が発生しており、食品の安全性に対する消費者の関心・要求は、さらに高まっています。当社グループでは品質重視の基本方針のもとにフードディフェンスを含めた品質保証体制の強化に努めていますが、一般的な食品の品質について当社の想定を超える異常な事態が発生した場合、または当社製品に直接関係がない場合であっても、風評などにより当社製品のイメージが低下するなどの事態が発生した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(5) 製造委託先への依存について

当社グループでは、社外の委託先に製造を委託し製品調達を依存している製品群があります。これら委託先の経営破綻などが発生した場合、製品供給に支障をきたすことや調達コストの上昇など、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(6) 有価証券の時価の変動について

当社グループでは売買を目的とした有価証券は保有していませんが、様々な理由により売却可能な有価証券を保有しています。これらの有価証券のうち時価を有するものについては、すべて時価で評価しており、市場における時価の変動は当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(7) 情報システム管理について

当社グループは、生産・販売・物流等の情報をコンピューターにより管理しています。これらの情報システムの運用については、万一の場合に備えて、万全の対策を講じています。しかしながら、当社の想定を超えた技術による不正アクセスやコンピューターウィルスの感染などにより、システム障害や情報漏洩などの被害のおそれがあり、このような事態が発生した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(8) 法的規制などについて

当社グループは、食品衛生法、製造物責任法、不当景品類及び不当表示防止法などの各種規制の適用を受けています。当社グループとしては、関連諸法規の順守に万全の体制で臨んでいます。法的規制の強化や新たな規制などによって、事業活動が制限される可能性があり、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループは、「人と地球に愛される企業を目指す」という経営理念のもと、技術開発と製品開発の両面から研究開発に取り組んでいます。

技術開発分野では、ツナの原料の一層の有効的な利用を進めるため、製造の各工程の製造技術について研究を進めました。

新製品開発分野では、以下のとおり進めました。

ツナ...缶詰「シーチキンゴロゴロ肉&フレーク」、缶詰「シーチキンNewマイルド(N)」、缶詰「素材そのままシーチキンNewマイルド(N)」、缶詰「シーチキンファンシー(復刻版)2P」、缶詰「和風シーチキンほんのりしょうゆ味」2品(Lフレーク、マイルド)

デザート...レトルトパウチ「ソルティフルーツ」3品(パン、洋なし、りんご)

パスタ&ソース...パスタ「ポポロスパ12.5」3品(3分、5分、7分)、パスタ「ナポリタンによく合うポポロスパ」2品(300g、500g)、パスタ「ミートソースによく合うポポロスパ」300g

総菜...レトルトパウチ「さばで健康」3品(しょうゆ味、みそ味、和風トマト味)、レトルトパウチ「さんまで健康」3品(しょうゆ味、みそ味、大根おろし煮)、缶詰「はごろも&キングオスカー オイルサーディン45g」、缶詰「はごろも&キングオスカー オリーブオイルサーディン45g」、缶詰「天然水でつくったシャキッとコーン純」

削りぶし・海苔・ふりかけ類...袋「おだしパック14袋」、袋「デコふり6色」2品(たまご風味、さけ風味)

ギフトセット・その他食品...ツインパケットレー「パバッとライスやんわかごはん」、ギフトセット「バラエティシーフードギフト」

ペットフード...レトルトパウチ「手作り仕立てのねこまんま」3品(サーモンのクラムチャウダー、たまごの中華スープ、かつおのブイヤベース)、レトルトパウチ「無一物ねこまんまパウチ鶏むね肉」、レトルトパウチ「無一物ねこまんまパウチやんわか仕立て」3品(まぐろ、かつお、鶏むね肉)、缶詰「無一物ねこまんま」3品(まぐろ、かつお、鶏むね肉)

なお、当連結会計年度における研究開発費は、180,933千円です。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準にもとづき作成されています。

この連結財務諸表の作成に当たっては、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因にもとづき、見積りおよび判断を行っていますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるために、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しています。

(2) 経営成績の分析

売上高（731億85百万円 前期比99.7%）

円安による原料高やエネルギーコストの上昇が続くなか、収益の改善を最優先課題として「ツナ」製品等の値上げを実施するとともに「野菜をおいしくシーチキン」キャンペーン等を実施し、消費者の需要喚起に努めました。10月に発生した「シーチキンマイルド」シリーズの自主回収の影響はありましたが、年度末にかけて消費税増税前の駆け込み需要があり、売上高は前期比1億85百万円減少し、731億85百万円となりました。

売上総利益（233億9百万円 前期比98.4%）

売上高の減少に加え、主原料価格の高止まりや円安傾向が強まったことにより、売上総利益は前期比3億89百万円減少し、233億9百万円となりました。

営業利益（3億64百万円 前期 17億30百万円）

売上総利益が減少したものの、販売費及び一般管理費の削減により、営業利益は前期比20億94百万円増加し、3億64百万円となりました。

経常利益（9億81百万円 前期 10億87百万円）

上記の営業利益増加の影響により、経常利益は前期比20億68百万円増加し、9億81百万円となりました。

当期純利益（25億82百万円 前期 26億1百万円）

上記の経常利益増加の影響に加え、主に投資有価証券売却益を計上した影響により、当期純利益は前期比51億84百万円増加し、25億82百万円となりました。

(3) 財政状態の分析

資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末より41億76百万円減少して、431億93百万円となりました。これは、主に受取手形及び売掛金が35億57百万円増加したものの、投資有価証券が36億55百万円、有形固定資産が28億65百万円減少したこと等によるものです。

負債

当連結会計年度末の負債は、前連結会計年度末より40億69百万円減少して、236億29百万円となりました。これは、主に未払法人税等が8億44百万円増加したものの、借入金（純額）が31億10百万円および繰延税金負債（固定）が12億46百万円減少したこと等によるものです。

純資産

当連結会計年度末の純資産は、前連結会計年度末より1億6百万円減少して、195億63百万円となりました。これは、利益剰余金が23億円増加したものの、その他有価証券評価差額金が23億21百万円減少したこと等によるものです。

この結果、当連結会計年度末における自己資本比率は45.3%、1株当たり純資産額は1,038円92銭となりました。

(4) 資本の財源および資金の流動性

キャッシュ・フロー

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度の収入11億52百万円に対し13億69百万円資金が減少し、2億16百万円の支出となりました。この減少の主な要因は、税金等調整前当期純利益が増加したものの、売上債権が増加したことによるものです。

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度の支出10億56百万円に対し46億37百万円資金が増加し、35億81百万円の収入となりました。この増加の主な要因は、有形固定資産の取得による支出が増加したものの投資有価証券の売却および有形固定資産の売却による収入が増加したことによるものです。

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度の支出1億10百万円に対し33億23百万円資金が減少し、34億34百万円の支出となりました。この減少の主な要因は、短期借入金が増加したことによるものです。

これらの結果、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末8億72百万円に対し69百万円減少して8億2百万円となりました。

資金の流動性に係る情報

当社グループは営業活動によるキャッシュ・フローや金融機関からの借入等により資金調達を行っています。当社グループの資金調達の方針は、必要資金を円滑かつ効率的に調達することにあります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

第85期（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

当連結会計年度においては、製造設備の更新および合理化を中心とする継続的な設備投資を実施した結果、当グループの設備投資の総額は631,476千円となりました。

なお、生産能力に重要な影響を及ぼすような固定資産の売却、撤去はありませんが、物流センター用地として保有していた土地等を売却しました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主な設備は次のとおりです。

(1) 提出会社

(平成26年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（千円）					従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
焼津プラント (静岡県焼津市)	食品事業	缶詰生産設備	804,373	427,843	491,039 (19,345)	26,906	1,750,163	170
富士山 パスタプラント (静岡市清水区)	食品事業	パスタ生産設 備	1,182,036	136,686	93,706 (3,243)	7,904	1,420,334	62
バイオプラント (静岡県焼津市)	食品事業	フィッシュ ミール・ フィッシュエ キス生産設備	242,246	178,718	103,835 (3,522)	4,739	529,539	11
サンライズプラント (静岡県焼津市)	食品事業	包装米飯生産 設備	154,702	35,149	435,001 (17,000)	167	625,021	17
本社 (静岡市清水区)	食品事業	その他設備	303,492	1,685	435,161 (8,200)	549,648	1,289,987	112
はごろもビル (東京都中央区)	不動産賃貸事 業	その他設備	340,181	26	200,044 (325)	48,561	588,813	22

(2) 国内子会社

(平成26年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（千円）					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
(株)マルアイ	熱田工場 (名古屋市熱田区)	食品事業	鯉等削り節 生産設備	116,033	63,786	18,036 (3,547)	4,947	202,802	151
(株)マルアイ	木曾岬工場 (三重県桑名郡木 曾岬町)	食品事業	海苔製品 生産設備	210,461	28,278	145,453 (11,016)	3,339	387,531	88
(株)マルアイ	木曾岬第二工場 (三重県桑名郡木 曾岬町)	食品事業	節原料 冷蔵設備	3,119	223	538,369 (9,878)	-	541,711	2

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、リース資産および建設仮勘定の合計です。なお、金額には消費税等を含みません。

2 生産能力に重要な影響を及ぼす休止中の設備はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、今後3年間の業界動向、生産計画、投資効率等を総合的に勘案して策定しています。

生産能力に重要な影響を及ぼす設備の新設・除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	82,600,000
計	82,600,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,650,731	20,650,731	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数1,000株
計	20,650,731	20,650,731		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成13年5月22日 (注)	1,877,339	20,650,731	-	1,441,669	-	942,292

(注) 平成13年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載された株主の所有株式を、1株につき1.1株の割合をもって分割しています。ただし、分割の結果生じる1株未満の端数株式は、これを一括売却し、その処分代金を端数の生じた株主に対し、その端数に応じて分配しています。

(6)【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状 況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	9	8	95	14	-	2,329	2,455	-
所有株式数 (単元)	-	1,410	7	10,756	61	-	8,319	20,553	97,731
所有株式数の割合 (%)	-	6.83	0.04	52.13	0.30	-	40.70	100.00	-

(注) 自己株式1,820,302株は、「個人その他」に1,820単元、「単元未満株式の状況」に302株含まれています。

(7)【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
公益財団法人 はごろも教育研究奨励会	静岡市清水区辻1-1-1	8,783	42.53
はごろも高翔会	静岡市清水区島崎町151 はごろもフーズ株式会社内	1,315	6.36
後藤康雄	静岡市清水区	1,300	6.29
株式会社静岡銀行	静岡市葵区呉服町1-10	583	2.82
農林中央金庫	東京都千代田区有楽町1-13-2	583	2.82
はごろもフーズ従業員持株会	静岡市清水区島崎町151 はごろもフーズ株式会社内	354	1.71
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋2-5-2	300	1.45
後藤清雄	静岡市駿河区	272	1.31
木内建設株式会社	静岡市駿河区国吉田1-7-37	270	1.30
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1-2-1	210	1.01
計		13,973	67.66

(注) 上記のほか、自己株式が1,820千株あります。

(8)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,820,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,733,000	18,733	
単元未満株式 (注)	普通株式 97,731		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	20,650,731		
総株主の議決権		18,733	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式302株が含まれています。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) はごろもフーズ株式会社	静岡市清水区島崎町151	1,820,000	-	1,820,000	8.81
計		1,820,000	-	1,820,000	8.81

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	2,417	2,625,723
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式は含まれていません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	1,820,302	-	1,820,302	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式は含まれていません。

3【配当政策】

当社の利益配分は、収益性の向上と財務体質の強化のために内部留保の充実をはかるとともに、安定した配当を続けることを基本としています。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としています。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当は株主総会、中間配当は取締役会にて行っています。

第85期の配当につきましては、期末配当金として1株当たり7円50銭とし、中間配当金1株当たり7円50銭と合わせて1株当たり合計15円の配当としました。

内部留保資金につきましては、一層の品質向上と生産合理化のための投資と安定的な配当の維持への備えに充てていきます。

また、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めています。

なお、当社は連結配当規制適用会社です。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当金 (円)
平成25年11月12日 取締役会決議	141	7.50
平成26年6月26日 定時株主総会決議	141	7.50

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第81期	第82期	第83期	第84期	第85期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	1,150	1,239	1,270	1,248	1,120
最低(円)	979	1,025	1,125	1,069	1,050

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第二部におけるものです。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月
最高(円)	1,089	1,087	1,075	1,084	1,089	1,083
最低(円)	1,076	1,050	1,056	1,063	1,061	1,050

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第二部におけるものです。

5【役員 の 状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		後藤 康雄	昭和24年2月14日生	昭和46年4月 味の素(株)入社 昭和53年4月 当社入社 昭和55年2月 総務部長 昭和58年6月 取締役就任 総務部長 昭和60年6月 常務取締役就任 総務部長 昭和61年6月 代表取締役社長就任 平成17年4月 (株)マルアイ代表取締役会長就任 (現任) 平成19年6月 代表取締役会長就任(現任) 平成20年2月 公益財団法人はごろも教育研究奨励 会理事長就任(現任)	(注) 1	1,300
代表取締役 社長		溝口 康博	昭和27年10月20日生	昭和52年4月 当社入社 平成9年1月 大阪支店長 平成10年1月 東京支店長 平成11年6月 取締役就任 東京支店長 平成12年6月 営業部長 平成14年6月 販売本部長補佐兼営業部長 平成15年6月 販売本部長代行兼営業部長 平成16年6月 常務取締役就任 販売本部長代行兼 営業部長 平成17年4月 販売本部長兼営業部長 平成18年6月 専務取締役就任 販売本部長兼営業 部長 平成19年1月 販売本部長 平成19年6月 代表取締役社長就任(現任)	(注) 1	14
取締役副社長	事業本部長 兼業務改革担当	池田 憲一	昭和52年1月17日生	平成11年4月 三菱商事(株)入社 平成19年4月 当社入社 平成22年1月 生産第二部次長 兼製品仕入グループマネージャー 平成24年1月 経営企画部次長 兼基幹システムプロジェクト担当 平成24年6月 取締役就任経営企画部長 平成25年4月 家庭用営業部長 平成25年7月 取締役副社長就任(現任) 社長補佐兼業務改革担当 平成26年4月 事業本部長兼業務改革担当(現任)	(注) 1 (注) 5	1
常務取締役	第2事業部長	石神 章兆	昭和30年4月3日生	昭和53年4月 当社入社 平成15年6月 東京支店長 平成17年6月 取締役就任 東京支店長 平成19年1月 営業部長 平成19年6月 販売本部長兼営業部長 平成19年10月 販売本部長兼家庭用営業部長 平成22年1月 販売本部長 平成22年6月 常務取締役就任(現任) 販売本部長 平成23年1月 生産本部長兼生産第一部長 平成23年6月 生産本部長兼生産第一部長兼環境問 題担当 平成24年6月 生産本部長兼生産第一部長 平成25年2月 販売本部長 平成26年4月 第2事業部長(現任)	(注) 1	9

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	事業調整室担当	大木 道隆	昭和30年1月29日生	昭和53年4月 当社入社 平成15年6月 生産第二部長 平成18年6月 取締役就任 生産本部長補佐兼生産第二部長 平成19年6月 生産本部長兼生産第二部長 平成22年1月 生産本部長 平成22年6月 常務取締役就任(現任) 生産本部長兼生産第一部長 平成23年1月 販売本部長 平成23年6月 マルアイ商事(株)代表取締役社長就任 平成25年2月 生産本部長兼生産第一部長 平成26年4月 事業調整室担当(現任)	(注) 1	2
常務取締役	サービス本部長	後藤 佐恵子	昭和49年11月19日生	平成9年4月 味の素(株)入社 平成14年6月 米国スタンフォード大学経営大学院修士課程修了 平成14年9月 マッキンゼー・アンド・カンパニー・インク・ジャパン入社 平成16年4月 当社入社 平成16年6月 取締役就任 生産本部長補佐 平成19年6月 サービス本部副本部長 平成20年4月 全員経営推進室長 平成22年1月 経営企画部担当 平成23年6月 経営企画部担当兼お客様相談部担当 平成24年6月 常務取締役就任 サービス本部長(現任)	(注) 1 (注) 5	6
取締役	第3事業部長	鳥羽山 宏史	昭和32年3月28日生	昭和55年4月 当社入社 平成6年1月 甲信営業所長 平成10年1月 静岡営業所長 平成19年1月 東京支店長 平成21年6月 取締役就任(現任) 東京支店長 平成22年1月 家庭用営業部長 平成23年10月 販売本部副本部長兼家庭用営業部長 平成25年4月 経営企画部長 平成26年4月 第3事業部長(現任)	(注) 1	3
取締役	経営企画室担当	川隅 義之	昭和32年8月28日生	昭和55年4月 当社入社 平成2年1月 沖縄営業所長 平成18年6月 経営企画部部長 平成20年6月 総務部長 平成21年6月 取締役就任(現任) 総務部長 平成24年6月 サービス本部副本部長兼総務部長 平成26年4月 経営企画室担当(現任)	(注) 1	10
取締役	焼津プラント工場長	鈴木 隆昭	昭和31年6月4日生	昭和55年4月 当社入社 平成5年8月 バンコック駐在員事務所長 平成16年1月 バイオ営業部長 平成19年1月 バイオプラント工場長兼バイオ営業部長 平成22年1月 焼津プラント副工場長 平成22年6月 取締役就任 焼津プラント工場長(現任)	(注) 1	4
取締役	お客様相談部長兼環境問題担当	岩間 英幸	昭和34年4月11日生	昭和57年4月 当社入社 平成10年10月 バンコック駐在員事務所長 平成20年1月 お客様相談部品質管理室長 平成23年6月 お客様相談部長 平成24年6月 取締役就任 お客様相談部長兼環境問題担当(現任)	(注) 1	2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	東京支店長	見崎 修	昭和34年11月29日生	昭和53年4月 平成16年7月 平成19年1月 平成22年1月 平成24年1月 平成24年6月	当社入社 福岡営業所長 大阪支店長 フードサポート部長 東京支店長 取締役就任 東京支店長(現任)	(注) 1	3
取締役	第1事業部長兼 乾物ユニット長	山田 雅文	昭和36年9月24日生	昭和57年4月 平成10年7月 平成21年6月 平成24年6月 平成26年4月 平成26年6月	当社入社 営業部営業第六グループマネージャー (株)マルアイ取締役販売企画部長 当社名古屋支店長 第1事業部長兼乾物ユニット長 取締役就任第1事業部長 兼乾物ユニット長(現任)	(注) 1	5
取締役	デザート・総菜 ユニット長	松井 敬	昭和38年8月27日生	昭和62年4月 平成10年7月 平成14年10月 平成22年1月 平成26年4月 平成26年6月	(株)東食入社 当社入社 バンコック駐在員事務所長 生産第二部長 デザート・総菜ユニット長 取締役就任デザート・総菜ユニット 長(現任)	(注) 1	2
取締役		後藤 清雄	昭和27年11月29日生	昭和51年4月 昭和53年1月 昭和61年3月 平成8年6月 平成8年8月 平成10年4月 平成12年8月 平成14年1月 平成14年6月 平成17年1月 平成18年6月 平成24年6月	(株)伊勢丹入社 (株)静岡伊勢丹転籍 当社入社 取締役就任 営業部副部長 サービス本部副本部長兼経営企画部 長兼H J P推進室副室長 経営企画部長 生産本部長補佐兼物流部長 サービス本部長 常務取締役就任 サービス本部長 サービス本部長兼経理部長 専務取締役就任 サービス本部長 取締役(非常勤、現任) セントラルサービス(株)代表取締役 会長就任(現任)	(注) 1 (注) 5	272
常勤監査役		松永 年史	昭和23年11月16日生	昭和46年4月 平成2年4月 平成6年6月 平成7年1月 平成11年8月 平成12年1月 平成14年6月 平成18年6月	(株)静岡銀行入社 当社へ出向 取締役就任 経営企画室長 サービス部門統轄兼経理部長兼経営 企画部長 (株)静岡銀行退社 経営企画部長 常務取締役就任 経営企画部長 常勤監査役就任(現任)	(注) 2	15
常勤監査役		坂見 好一	昭和26年1月28日生	昭和48年4月 平成12年1月 平成14年6月 平成15年6月 平成17年1月 平成18年4月 平成23年6月	当社入社 生産第二部長 取締役就任 生産本部長補佐兼生産 第二部長 常務取締役就任 生産本部長 生産本部長兼生産第一部長 お客様相談部長兼環境問題担当 常勤監査役就任(現任)	(注) 3	13

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役		木村 恭平	昭和20年6月27日生	昭和45年4月 昭和57年12月 昭和62年4月 平成元年6月 平成8年6月 平成12年6月 平成14年6月 平成16年6月 平成23年6月	日本国有鉄道本社入社 外務省出向 在カナダ日本国大使館 1等書記官 (国鉄民営化にともない) 東海旅客鉄道(株)に配属 総合企画本部経営管理部長 取締役就任 総合企画本部副本部長 常務取締役就任 静岡支社長 名古屋ターミナルビル(株)代表取締役 社長就任 東海キヨスク(株)常勤監査役就任 当社監査役就任(現任)	(注)3 (注)6	-
監査役		田口 博雄	昭和23年8月29日生	昭和46年7月 昭和55年9月 平成2年5月 平成6年4月 平成8年9月 平成9年5月 平成13年4月 平成14年4月 平成23年6月	日本銀行入行 国際決済銀行に出向 日本銀行調査統計局企画調査課長 松山支店長 検査役 静岡支店長 法政大学社会学部教授就任(現任) 静岡県金融アドバイザー就任(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)3 (注)6	-
監査役		林 省吾	昭和22年3月30日生	昭和45年4月 平成8年9月 平成13年1月 平成14年1月 平成16年1月 平成17年8月 平成18年7月 平成18年9月 平成24年4月 平成24年6月	自治省入省 同 大臣官房審議官 総務省大臣官房総括審議官 同 自治財務局長 同 消防庁長官 同 事務次官 退官 (財)地域創造理事長 市町村職員中央研修所 (市町村アカデミー)学長就任(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)4 (注)6	-
計							1,663

- (注) 1 平成26年6月26日開催の定時株主総会から1年間
2 平成26年6月26日開催の定時株主総会から4年間
3 平成23年6月29日開催の定時株主総会から4年間
4 平成24年6月28日開催の定時株主総会から4年間
5 取締役副社長池田憲一は代表取締役会長後藤康雄の女婿(娘の夫)であり、常務取締役後藤佐恵子は同会長の長女、取締役後藤清雄は同会長の弟です。
6 監査役 木村恭平、田口博雄、林省吾は社外監査役です。
なお、当社は社外監査役3名を東京証券取引所の定めにもとづく独立役員として指定し、同取引所に届け出しています。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方】

当社グループは、「人と地球に愛される企業を目指します」の経営理念のもと、健全な企業活動の成果を消費者・従業員・投資家・取引先等に還元し、社会的責任を果たしてまいります。また、「人と自然をおいしくつなぐ」をコーポレート・メッセージとし、笑顔がおいしい食シーンのお手伝いをすることを使命と考えます。

コーポレート・ガバナンスの体制については、最重要の経営課題として研究を続けていますが、当社においては企業規模等を考慮し、取締役が業務執行権限を委嘱する経営管理組織が適当と考えています。各取締役はそれぞれの経営判断にもとづいて委嘱事項の執行に当たり、同時に執行状況を取締役会に報告し、その監督を受けています。

会社の機関の内容等

イ．当社は、監査役制度を採用しています。

ロ．取締役会は、原則として月1回、必要に応じて随時開催しています。

ハ．経営環境の変化への機動的な対応、経営責任の明確化をはかるため、取締役の任期を1年としています。

ニ．事業（生産・販売・開発）、サービス（総務・経理）の各本部を設け、それぞれに本部長を置いて部門別統括管理を分掌させ、迅速な意思決定をはかっています。また、予算統制を分掌する経営企画室、品質保証を分掌するお客様相談部、および内部監査を分掌する全員経営推進室を各本部とは別に置いています。重要な管理業務は複数部署による相互検証・相互チェックを組み込んだ内部牽制が働く組織体制をとっています。

ホ．監査役は、常勤監査役2名および社外監査役3名で、取締役会のほか重要会議に出席し、また資料調査を行うなどにより取締役の業務執行を適法性・妥当性・効率性の観点から監査しています。毎期、定時株主総会後には当期の監査方針等を取締役会において通知しています。また内部監査を担当する全員経営推進室および会計監査人と連携を保ち監査効果の向上に努めています。なお、常勤監査役の松永年史は経理部長および経理部所管取締役を経験し、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。

社外監査役3名は、重要会議において必要に応じて質問し、報告を受け、意見を表明しています。また、原則として月1回開催する監査役会において、常勤監査役の監査報告を受け、的確な監査業務の遂行等につき協議します。

社外監査役の選任にあたって当社は、一般株主と利益相反が生じるおそれのない客観的・中立的立場から、それぞれの専門知識・経験等を活かした監査を行っていただけるよう、その独立性を重視しています。また、東京証券取引所の独立役員に関する判断基準等を参考に、(a)当社および当社グループ会社の業務執行者、(b)主要な取引先や顧客またはその業務執行者、(c)役員報酬以外に多額の金銭その他の財産を得ている専門的サービスの提供者、(d)最近において(a)から(c)に該当していた者、(e)当社および当社グループ会社の業務執行者の近親者あるいは(a)から(d)の近親者等のいずれにも該当しないことを確認しています。

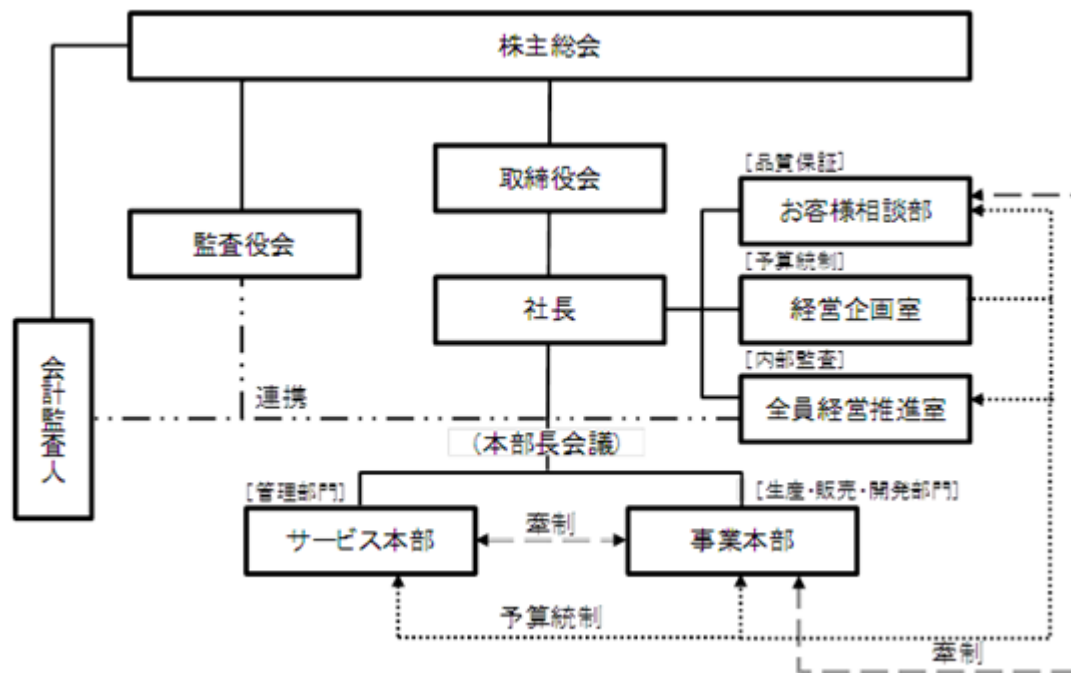
監査役制度は有効に機能しており、社外取締役は選任していませんが、社外からの経営の監督・監視という面では、現状の体制において社外監査役がその役割を十分に果たしていると考えます。なお、当社は、社外監査役3名との間で、会社法第427条第1項の規定にもとづき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しています。当該契約にもとづく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額としています。

ヘ．全員経営推進室の内部監査担当には業務経験豊富な要員6名を配置し、社内各部署の業務について経営方針・規程等への準拠状況を計画的に監査しています。全員経営推進室長は、内部監査計画の作成にあたっては、監査効率の向上をはかるため、監査役および会計監査人と調整を行っています。また、内部監査結果は監査役および会計監査人にも報告しています。

ト．会計監査については、監査法人双研社を選任し監査を受けています。会計監査業務を執行した公認会計士は木本恵輔（継続監査年数1年）および貴志豊（継続監査年数3年）、補助者は公認会計士6名、会計士補等3名です。なお、監査法人双研社および業務執行社員と当社の間には特別な利害関係はありません。

会計監査人による年2回の監査報告会には、代表取締役とともに監査役・全員経営推進室長も出席し、会計監査による問題点を把握するとともに、必要に応じて意見交換を行います。

以上をまとめると次の図のとおりです。



内部統制システムの整備およびリスク管理の状況等

当社は業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）を会社法、会社法施行規則、金融商品取引法の規定にしたがい下記のとおり定めています。

なお、本件については企業グループ一体となって取り組むものとし、またその有効性を継続的に点検・評価し、改善・強化に努めるものとします。

イ．取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(イ) 法令遵守を経営の基本原則とし、社会的良識を備えた市民としての判断基準・行動基準をコンプライアンスブックに定める。

(ロ) 取締役会は原則として月1回、必要に応じて随時開催し、監査役も出席して重要事項の決定と業務執行状況の監督を行う。

(ハ) 内部通報制度により不正等の早期発見と発生抑止をはかる。

(ニ) 反社会的な勢力とは如何なる面においても一切関係を持たない。

ロ．取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

関連規程に則り保存・管理する。

ハ．損失の危険の管理に関する規程その他の体制

原材料、為替変動、災害、品質等に係るリスクについては、それぞれの主管部署を定め、継続的な情報収集と分析、および対応策の立案等リスク管理に当たる。

ニ．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

(イ) 取締役に業務執行権限を委嘱する。各取締役はそれぞれの経営判断にもとづいて委嘱事項の執行に当たり、同時に執行状況を取締役会に報告し、その監督を受ける。

(ロ) 事業（生産・販売・開発）、サービス（総務・経理）の各本部を設け、それぞれに本部長を置いて部門別統括管理を分掌させ、迅速な意思決定をはかる。

(ハ) 予算統制を分掌する経営企画室、品質保証を分掌するお客様相談部、および内部監査を分掌する全員経営推進室を各本部とは別に置く。

(ニ) 社長・本部長・経営企画室担当取締役による本部長会議により本部間を調整する。

ホ．使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

(イ) コンプライアンスブックの配布等により遵法意識の徹底をはかる。

(ロ) 重要な管理業務については規程に決裁権限・標準業務手順等を定める。

(ハ) 重要な管理業務については複数部署による相互検証等を組み込んだ内部牽制の働く組織編成とする。

(ニ) 全員経営推進室が業務執行状況の適法性・効率性を内部監査する。

(ホ) 内部通報制度により不正等の早期発見と発生抑止をはかる。

(ヘ) 反社会的な勢力とは如何なる面においても一切関係を持たない。

へ．当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

- (イ) 当社グループに共通するコンプライアンスブックの配布等により遵法意識の徹底をはかる。
- (ロ) 重要な管理業務については規程類に当社グループ内標準の業務手順を定める。
- (ハ) 全員経営推進室が子会社における業務執行状況の適法性・効率性を監査する。
- (ニ) 予算統制により当社グループ内各社の業績を管理する。
- (ホ) 当社の取締役の一部が子会社の取締役を兼務し、重要事項の決定に関与し、業務執行状況を監督する。

ト．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役会の事務局を担当する総務部内に、他の業務に優先して監査役の要請に対応する使用人を予め指名し配属する。

チ．前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

前号の使用人の任命・異動・考課等の決定には監査役会の事前の同意を得る。

リ．取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

- (イ) 取締役会への出席のほか、部長会・サービス部門会議等の重要会議に監査役の出席を求める。
- (ロ) 以下に定める事項については速やかに監査役に報告する。

- (a) 法令・定款違反に関する事項
- (b) 品質の欠陥に関する事項
- (c) 会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事項
- (d) 決算分析および月次予実差異分析
- (e) 内部監査実施状況

ヌ．その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (イ) 全員経営推進室長は、監査の実効性をより高めるため、監査役および会計監査人が全員経営推進室と定期的な情報・意見を交換する機会を確保する。
- (ロ) 内部通報制度の通報内容を全て監査役に報告する。

ル．財務報告に係る内部統制を確保するための体制

金融商品取引法第24条の4の4に規定する内部統制報告書の提出を有効かつ適切に行うための関連規程を制定し、財務報告に係る内部統制を整備・運用するとともに、その評価・改善を継続的に行う。

役員報酬等の内容

イ．当事業年度に係る報酬等の総額

取締役および監査役に対する報酬は次のとおりです。

区分	支給人員	支給額	摘要
取締役	11 名	213,291 千円	
監査役	5	23,784	
(うち社外監査役)	(3)	(8,040)	
合計	16	237,075	

(注) 1 取締役の支給額には、使用人兼務役員の使用人分給与は含まれていません。

2 上記には無報酬の取締役2名が存在しています。

3 上記の支給額には、以下のものが含まれています。

- ・当事業年度における役員退職慰労引当金繰入額41,910千円(取締役11名に対し39,726千円、監査役5名に対し2,184千円(うち社外監査役3名に対し840千円))。

4 連結報酬等の総額が1億円以上の役員はいません。

ロ．報酬の決定についての方針

取締役の報酬は内規にもとづき算定し、代表取締役社長が職責等を勘案し決定しています。また監査役の報酬は、監査役の協議により決定しています。

取締役の定数に関する定款の定め

当社は、取締役の定数を15名以内にする旨を定款で定めています。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議につき、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、および累積投票によらない旨を定款で定めています。

株主総会の決議事項を取締役会で決議することができる事項

- イ．当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議により定めることができる旨を、定款に定めています。
- ロ．当社は、株主への利益還元重視の観点から継続的・安定的な配当を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めています。
- ハ．当社は、自己株式の取得について、会社法第165条第2項の規定により、機動的な資本政策等を遂行するため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めています。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的に、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めています。

株式の保有状況

- イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
80 銘柄 6,013,998千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的(注)
タイ・ユニオン・フローズン・プロダクツ	19,278,000	3,932,712	海外製品調達
(株)静岡銀行	2,317,625	2,456,682	資金調達・金融サービス利用
三菱商事(株)	302,000	526,386	製品輸入・販売
三井物産(株)	307,000	403,091	製品輸入・販売
伊藤忠商事(株)	305,000	344,955	製品輸入・販売
伊藤忠食品(株)	87,100	329,673	製品販売
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	223,100	124,489	資金調達・金融サービス利用
(株)トーカン	67,366	115,533	製品販売
(株)セブン&アイ・ホールディングス	26,337	82,040	製品販売
加藤産業(株)	25,000	48,550	製品販売
(株)いなげや	39,849	40,048	製品販売
(株)マルイチ産商	47,398	37,231	製品販売
(株)清水銀行	9,300	26,179	資金調達・金融サービス利用
(株)オークワ	21,848	22,897	製品販売
イズミヤ(株)	40,640	19,995	製品販売
ヤマエ久野(株)	19,277	18,255	製品販売
ユニ・チャーム(株)	3,000	16,710	業界情報等収集
三菱食品(株)	5,420	15,978	製品販売
日東富士製粉(株)	48,100	15,199	原材料調達
東洋製罐(株)	11,000	14,564	原材料調達
(株)ドミー	23,721	12,572	製品販売
(株)サトー商会	13,054	11,826	製品販売
(株)ヤマナカ	9,400	6,927	製品販売
イオン(株)	5,673	6,893	製品販売
レンゴー(株)	12,612	6,015	原材料調達
(株)カスミ	10,000	5,770	製品販売
(株)キューソー流通システム	5,800	5,521	製品保管・運送
(株)マックスパリュ北海道	3,300	5,372	製品販売
日清食品ホールディングス(株)	1,195	5,240	業界情報等収集
花王(株)	1,000	3,080	業界情報等収集

(注) 当社は、主に取引先である各銘柄の発行会社との協力関係を強固なものとする等を目的として株式を保有しています。保有目的欄には、その主な取引内容ほかを記載しています。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的(注)
(株)静岡銀行	2,317,625	2,333,848	資金調達・金融サービス利用
三菱商事(株)	302,000	578,632	製品輸入・販売
三井物産(株)	307,000	447,913	製品輸入・販売
伊藤忠商事(株)	305,000	367,830	製品輸入・販売
伊藤忠食品(株)	87,100	307,027	製品販売
(株)トーカン	67,992	139,519	製品販売
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	223,100	126,497	資金調達・金融サービス利用
(株)セブン&アイ・ホールディングス	27,793	109,615	製品販売
加藤産業(株)	25,000	54,875	製品販売
(株)いなげや	41,646	42,770	製品販売
(株)マルイチ産商	48,092	41,119	製品販売
(株)清水銀行	9,300	24,924	資金調達・金融サービス利用
イズミヤ(株)	43,202	22,378	製品販売
(株)オークワ	23,146	21,294	製品販売
ヤマエ久野(株)	20,544	19,085	製品販売
東洋製罐グループホールディングス(株)	11,000	18,436	原材料調達
ユニ・チャーム(株)	3,000	16,539	業界情報等収集
日東富士製粉(株)	48,100	15,343	原材料調達
三菱食品(株)	5,420	12,677	製品販売
(株)サトー商会	13,705	12,635	製品販売
(株)ドミー	24,891	12,121	製品販売
イオン(株)	6,095	7,088	製品販売
レンゴー(株)	12,612	6,987	原材料調達
(株)カスミ	10,000	6,980	製品販売
(株)マックスバリュ北海道	3,300	6,105	製品販売
(株)ヤマナカ	9,400	5,875	製品販売
(株)キューソー流通システム	5,800	5,869	製品保管・運送
日清食品ホールディングス(株)	1,195	5,562	業界情報等収集
花王(株)	1,000	3,657	業界情報等収集
東洋水産(株)	1,000	3,445	業界情報等収集

(注) 当社は、主に取引先である各銘柄の発行会社との協力関係を強固なものとする等を目的として株式を保有しています。保有目的欄には、その主な取引内容ほかを記載しています。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務にもとづく報酬(百万円)	非監査業務にもとづく報酬(百万円)	監査証明業務にもとづく報酬(百万円)	非監査業務にもとづく報酬(百万円)
提出会社	35	-	31	-
連結子会社	-	-	-	-
計	35	-	31	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査日数、監査人員等の監査計画の妥当性を勘案し、監査法人との協議を経て、監査役会の同意のうえ決定しています。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)にもとづいて作成しています。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則にもとづいて作成しています。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)にもとづいて作成しています。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則にもとづいて作成しています。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定にもとづき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、監査法人双研社による監査を受けています。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っています。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計監査法人等が行う研修会への参加や会計専門誌の定期購読等を行っています。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	872,361	802,718
受取手形及び売掛金	12,020,777	15,578,650
商品及び製品	6,048,312	4,774,281
仕掛品	146,728	76,174
原材料及び貯蔵品	3,235,909	2,733,282
繰延税金資産	102,450	236,876
未収入金	1,733,985	2,433,136
その他	391,471	217,736
貸倒引当金	1,586	1,628
流動資産合計	24,550,410	26,851,230
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,167,975	14,039,767
減価償却累計額	9,300,707	9,576,499
建物及び構築物(純額)	2,486,268	2,463,267
機械装置及び運搬具	10,273,782	9,181,077
減価償却累計額	7,851,959	8,226,099
機械装置及び運搬具(純額)	2,421,822	954,978
土地	2,461,859	2,353,242
リース資産	129,954	240,512
減価償却累計額	62,169	52,354
リース資産(純額)	67,785	188,157
建設仮勘定	13,230	5,673
その他	1,661,311	1,673,394
減価償却累計額	1,158,044	1,197,780
その他(純額)	503,267	475,613
有形固定資産合計	12,491,971	9,626,933
無形固定資産	359,246	463,321
投資その他の資産		
投資有価証券	1,299,669,584	1,260,013,998
繰延税金資産	4,023	5,169
その他	318,728	246,089
貸倒引当金	24,448	13,536
投資その他の資産合計	9,967,887	6,251,720
固定資産合計	22,819,104	16,341,975
資産合計	47,369,515	43,193,206

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,947,596	11,601,283
短期借入金	2,340,000	-
1年内返済予定の長期借入金	2,134,000	228,000
リース債務	19,279	35,774
未払金	4,513,379	3,782,345
未払法人税等	9,262	853,954
売上割戻引当金	23,277	29,884
販売促進引当金	4,954	3,747
賞与引当金	328,602	353,065
その他	550,027	638,177
流動負債合計	22,136,379	17,578,232
固定負債		
長期借入金	2,156,000	2,291,000
リース債務	41,676	151,203
繰延税金負債	2,403,923	1,157,343
退職給付引当金	698,435	-
役員退職慰労引当金	626,378	659,085
退職給付に係る負債	-	939,377
資産除去債務	16,463	16,792
その他	216,075	217,938
固定負債合計	5,562,952	6,051,741
負債合計	27,699,332	23,629,973
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,441,669	1,441,669
資本剰余金	942,429	942,429
利益剰余金	15,384,437	17,684,884
自己株式	2,149,064	2,151,690
株主資本合計	15,619,471	17,917,292
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,372,584	2,051,025
繰延ヘッジ損益	119,618	3,403
為替換算調整勘定	441,491	162,485
退職給付に係る調整累計額	-	239,197
その他の包括利益累計額合計	4,050,711	1,645,939
純資産合計	19,670,182	19,563,232
負債純資産合計	47,369,515	43,193,206

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	73,371,650	73,185,922
売上原価	1 49,671,992	1 49,876,110
売上総利益	23,699,657	23,309,811
販売費及び一般管理費	2, 3 25,429,834	2, 3 22,945,200
営業利益又は営業損失()	1,730,176	364,611
営業外収益		
受取利息	338	212
受取配当金	186,786	198,414
持分法による投資利益	95,908	112,455
賃貸料収入	77,584	80,737
受取手数料	333,076	292,214
その他	107,660	77,019
営業外収益合計	801,354	761,053
営業外費用		
支払利息	45,763	44,254
売上債権売却損	16,458	13,266
たな卸資産処分損	5,770	985
賃貸収入原価	70,320	68,616
その他	20,466	17,325
営業外費用合計	158,779	144,448
経常利益又は経常損失()	1,087,601	981,216
特別利益		
固定資産売却益	4 849	4 678,319
投資有価証券売却益	101	2,723,503
補助金収入	174,035	-
受取補償金	10,582	5 241,533
特別利益合計	185,568	3,643,356
特別損失		
貸倒引当金繰入額	2,614	-
固定資産除却損	6 85,811	6 16,670
固定資産売却損	-	7 901
投資有価証券売却損	-	3,748
投資有価証券評価損	-	3,854
ゴルフ会員権売却損	-	1,000
減損損失	8 920,653	8 1,187,729
固定資産撤去費用	-	33,202
工場休止関連費用	9 191,271	-
特別損失合計	1,200,351	1,247,104
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	2,102,383	3,377,468
法人税、住民税及び事業税	20,331	858,264
法人税等調整額	478,432	63,726
法人税等合計	498,764	794,538
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	2,601,148	2,582,929
当期純利益又は当期純損失()	2,601,148	2,582,929

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	2,601,148	2,582,929
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	643,457	2,321,558
繰延ヘッジ損益	88,325	123,021
持分法適用会社に対する持分相当額	49,248	279,006
その他の包括利益合計	781,030	2,165,573
包括利益	1,820,117	417,356
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,820,117	417,356
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,441,669	942,512	18,268,094	2,147,889	18,504,386
当期変動額					
剰余金の配当			282,508		282,508
当期純損失()			2,601,148		2,601,148
自己株式の取得				2,238	2,238
自己株式の処分		82		1,063	981
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	82	2,883,656	1,174	2,884,914
当期末残高	1,441,669	942,429	15,384,437	2,149,064	15,619,471

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	3,729,126	31,293	490,739	-	3,269,680	21,774,066
当期変動額						
剰余金の配当						282,508
当期純損失()						2,601,148
自己株式の取得						2,238
自己株式の処分						981
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	643,457	88,325	49,248	-	781,030	781,030
当期変動額合計	643,457	88,325	49,248	-	781,030	2,103,883
当期末残高	4,372,584	119,618	441,491	-	4,050,711	19,670,182

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,441,669	942,429	15,384,437	2,149,064	15,619,471
当期変動額					
剰余金の配当			282,483		282,483
当期純利益			2,582,929		2,582,929
自己株式の取得				2,625	2,625
自己株式の処分					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	2,300,446	2,625	2,297,820
当期末残高	1,441,669	942,429	17,684,884	2,151,690	17,917,292

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	4,372,584	119,618	441,491	-	4,050,711	19,670,182
当期変動額						
剰余金の配当						282,483
当期純利益						2,582,929
自己株式の取得						2,625
自己株式の処分						
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,321,558	123,021	279,006	239,197	2,404,771	2,404,771
当期変動額合計	2,321,558	123,021	279,006	239,197	2,404,771	106,950
当期末残高	2,051,025	3,403	162,485	239,197	1,645,939	19,563,232

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	2,102,383	3,377,468
減価償却費	1,463,612	1,197,092
減損損失	920,653	1,187,729
貸倒引当金の増減額(は減少)	594	10,870
その他の引当金の増減額(は減少)	31,869	62,569
受取利息及び受取配当金	187,125	198,627
支払利息	45,763	44,254
為替差損益(は益)	35	159
持分法による投資損益(は益)	95,908	112,455
有形固定資産売却損益(は益)	854	677,418
投資有価証券売却損益(は益)	101	2,719,755
補助金収入	174,035	-
受取補償金	10,582	241,533
売上債権の増減額(は増加)	2,381,280	3,557,873
たな卸資産の増減額(は増加)	664,238	1,759,221
未収入金の増減額(は増加)	33,518	433,617
仕入債務の増減額(は減少)	1,889,112	346,312
未払金の増減額(は減少)	110,588	121
その他	574,894	259,886
小計	374,658	409,961
利息及び配当金の受取額	245,967	270,246
利息の支払額	49,559	41,880
法人税等の支払額	25,647	44,942
法人税等の還付額	433,167	9,876
補助金の受取額	174,035	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,152,623	216,661
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	619,198	1,172,498
有形固定資産の売却による収入	27,266	1,779,963
投資有価証券の取得による支出	306,709	15,491
投資有価証券の売却による収入	1,601	3,102,620
貸付けによる支出	150	700
貸付金の回収による収入	7,569	5,918
その他	166,776	118,562
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,056,397	3,581,249
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,100,000	3,400,000
長期借入れによる収入	1,700,000	1,700,000
長期借入金の返済による支出	400,000	1,410,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	26,641	38,981
配当金の支払額	282,508	282,483
自己株式の取得による支出	2,238	2,625
その他	981	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	110,407	3,434,090
現金及び現金同等物に係る換算差額	257	138
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	14,439	69,642
現金及び現金同等物の期首残高	886,800	872,361
現金及び現金同等物の期末残高	872,361	802,718

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 3社

連結子会社名

(株)マルアイ

マルアイ商事(株)

セントラルサービス(株)

なお、非連結子会社はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社数

該当はありません。

(2) 持分法適用の関連会社数 1社

会社名

P.T. アネカ・ツナ・インドネシア

(3) 持分法適用会社であるP.T. アネカ・ツナ・インドネシアの決算日は12月31日です。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しています。なお、連結決算日までの間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っています。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しています。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

(イ) 時価のあるもの

連結決算日の市場価格等にもとづく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

(ロ) 時価のないもの

移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

主として月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については定額法)を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 10~50年

機械装置及び運搬具 4~10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法を採用しています。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

売上割戻引当金

売上割戻金の支払いに備えるため、売上高の一定割合を計上しています。

販売促進引当金

販売奨励金の支払いに備えるため、支払見込額を計上しています。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しています。

役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規にもとづく期末要支給額を計上しています。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額と当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を費用処理することとしています。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしています。

小規模企業等における簡便法の採用

連結子会社は、退職給付に係る負債および退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。なお、在外関連会社に持分法を適用するに当たっては、資産および負債は在外関連会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に計上しています。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

為替予約については振当処理を採用しています。なお、外貨建予定取引をヘッジ対象とする為替予約の振当処理については、連結決算日において為替予約を時価評価したことによる評価差額を連結貸借対照表に計上しています。

また、金利スワップについては特例処理を採用しています。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務および予定取引、借入金

ヘッジ方針

社内規程に定めた基本方針、取引権限、取引限度額、手続等にもとづき、為替変動リスクおよび金利変動リスクをヘッジしています。

ヘッジの有効性評価の方法

為替予約については、すべて製品等の購入予定にもとづくもので、キャッシュ・フローを固定化するものであり、有効性の評価を省略しています。

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしていますので、有効性の評価を省略しています。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。) および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。) を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しています。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更にもなう影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しています。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が939,377千円計上されるとともに、その他の包括利益累計額が239,197千円減少しています。

なお、1株当たり純資産額は12.70円減少しています。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「流動資産」の「その他」に含めていた「未収入金」は、資産の総額の100分の5を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「その他」に表示していた1,733,985千円は、「流動資産」の「未収入金」として組み替えています。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「賃貸料収入」は、営業外収益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた77,584千円は、「営業外収益」の「賃貸料収入」として組み替えています。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「有形固定資産売却損益(は益)」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 854千円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「有形固定資産売却損益(は益)」として組み替えています。

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「投資有価証券売却損益(は益)」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 101千円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「投資有価証券売却損益(は益)」として組み替えています。

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「受取補償金」は、金額の重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた 10,582千円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「受取補償金」として組み替えています。

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「未収入金の増減額（は増加）」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた33,518千円は、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未収入金の増減額（は増加）」として組み替えています。

前連結会計年度において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「有形固定資産の売却による収入」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っています。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた27,266千円は、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「有形固定資産の売却による収入」として組み替えています。

（未適用の会計基準等）

- ・「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日）
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日）

(1) 概要

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務および勤務費用の計算方法ならびに開示の拡充等について改正されました。

(2) 適用予定日

退職給付債務および勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首から適用します。
なお、当該会計基準等には経過的な取り扱いが定められているため、過去の期間の連結財務諸表に対しては遡及適用しません。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

退職給付債務および勤務費用の計算方法の改正による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中です。

（連結貸借対照表関係）

1 関連会社に対するもの

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券（株式）	842,281千円	1,125,200千円

2 担保資産及び担保付債務
担保資産

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
建物及び構築物	363,833千円	339,622千円
土地	586,715	586,715
投資有価証券	491,310	466,744
計	1,441,859	1,393,082

担保付債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	2,500,000千円	- 千円
1年内返済予定の長期借入金	1,340,000	280,000
長期借入金	1,560,000	2,910,000
計	5,400,000	3,190,000

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれています。

前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
190,757千円	89,805千円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要なもの

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
販売奨励金	16,427,770千円	15,164,152千円
販売促進引当金繰入額	4,954	3,747
広告宣伝費	760,696	252,816
荷造運賃	2,017,593	1,975,254
給料及び手当	1,624,392	1,392,650
賞与引当金繰入額	197,644	207,790
役員退職慰労引当金繰入額	51,028	48,870
退職給付費用	197,793	186,551

- 3 研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	239,244千円	180,933千円

研究開発費はすべて一般管理費に計上しています。

- 4 固定資産売却益の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	119千円	1,354千円
土地	-	676,944
その他(有形固定資産)	729	19
計	849	678,319

- 5 受取補償金

当連結会計年度において、当社グループは平成25年10月より缶詰製品「シーチキンマイルド」シリーズの一部を自主回収しています。

当該製品の自主回収にともない、当社仕入先との合意にもとづく逸失利益相当額を受取補償金に計上しています。

6 固定資産除却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物及び構築物	61,202千円	4,269千円
機械装置及び運搬具	24,263	9,341
リース資産	-	2,159
建設仮勘定	-	900
その他(有形固定資産)	272	0
無形固定資産	73	-
計	85,811	16,670

7 固定資産売却損の内訳

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械装置及び運搬具	- 千円	901千円

8 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
静岡県焼津市	事業用地	土地	202,301
静岡県焼津市	包装米飯製品製造工場	建物及び構築物 機械装置及び運搬具、土地	79,832
名古屋市熱田区 三重県桑名郡木曾岬町	乾物製品製造工場等	建物及び構築物 機械装置及び運搬具	638,520
計			920,653

当社グループは、事業用資産については主として管理会計上の事業区分にもとづく製品群をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、また、重要な賃貸資産および遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行い、上記資産グループについて減損損失を計上しています。

事業用地については、地価が著しく下落しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価額により評価しています。

包装米飯製品製造工場については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(建物及び構築物16,060千円、機械装置及び運搬具49,633千円、土地14,138千円)として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価額により評価しています。

乾物製品製造工場等については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(建物及び構築物343,189千円、機械装置及び運搬具295,331千円)として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価額により評価しています。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
静岡市清水区	パスタ製品製造工場	建物及び構築物、機械装置及び運搬具、リース資産、その他	1,007,079
静岡県焼津市	包装米飯製品製造工場	機械装置及び運搬具、土地	49,009
名古屋市熱田区 三重県桑名郡木曾岬町	乾物製品製造工場等	機械装置及び運搬具、その他	131,640
計			1,187,729

当社グループは、事業用資産については主として管理会計上の事業区分にもとづく製品群をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、また、重要な賃貸資産および遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行い、上記資産グループについて減損損失を計上しています。

パスタ製品製造工場については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（建物及び構築物12,469千円、機械装置及び運搬具985,748千円、リース資産6,467千円、その他2,393千円）として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は使用価値を使用し、将来キャッシュ・フローを2.2%で割り引いて算定しています。

包装米飯製品製造工場および乾物製品製造工場等については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（機械装置及び運搬具155,015千円、土地21,001千円、その他4,633千円）として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、社外の不動産鑑定士による「不動産調査報告書」にもとづく金額で評価しています。

9 工場休止関連費用

前連結会計年度において、焼津プラントの将来的な安定生産の継続を目的とした建物設備等の改修工事および生産性の向上を目的とした製造ラインの集約化工事を実施しました。

当該プラントの一時操業停止にともなう固定費相当額等を特別損失に計上しています。

（連結包括利益計算書関係）

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	963,253千円	858,221千円
組替調整額	101	2,709,056
税効果調整前	963,152	3,567,277
税効果額	319,694	1,245,719
その他有価証券評価差額金	643,457	2,321,558
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	140,667	195,728
税効果額	52,342	72,706
繰延ヘッジ損益	88,325	123,021
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	49,248	279,006
その他の包括利益合計	781,030	2,165,573

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	20,650,731	-	-	20,650,731
合計	20,650,731	-	-	20,650,731
自己株式				
普通株式(注)	1,816,785	2,000	900	1,817,885
合計	1,816,785	2,000	900	1,817,885

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,000株は、単元未満株式の買取請求による増加2,000株です。普通株式の自己株式の株式数の減少900株は、単元未満株式の買取請求による減少900株です。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

平成24年6月28日の第83期定時株主総会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額 141,254千円
- (ロ) 1株当たり配当額 7円50銭
- (ハ) 基準日 平成24年3月31日
- (ニ) 効力発生日 平成24年6月29日

平成24年11月12日開催の取締役会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額 141,253千円
- (ロ) 1株当たり配当額 7円50銭
- (ハ) 基準日 平成24年9月30日
- (ニ) 効力発生日 平成24年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成25年6月27日の第84期定時株主総会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

- (イ) 配当金の総額 141,246千円
- (ロ) 配当の原資 利益剰余金
- (ハ) 1株当たり配当額 7円50銭
- (ニ) 基準日 平成25年3月31日
- (ホ) 効力発生日 平成25年6月28日

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	20,650,731	-	-	20,650,731
合計	20,650,731	-	-	20,650,731
自己株式				
普通株式（注）	1,817,885	2,417	-	1,820,302
合計	1,817,885	2,417	-	1,820,302

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加2,417株は、単元未満株式の買取請求による増加2,417株です。

2. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

平成25年6月27日の第84期定時株主総会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

（イ）配当金の総額	141,246千円
（ロ）1株当たり配当額	7円50銭
（ハ）基準日	平成25年3月31日
（ニ）効力発生日	平成25年6月28日

平成25年11月12日開催の取締役会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

（イ）配当金の総額	141,236千円
（ロ）1株当たり配当額	7円50銭
（ハ）基準日	平成25年9月30日
（ニ）効力発生日	平成25年12月5日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

平成26年6月26日の第85期定時株主総会において、次のとおり決議しています。

・普通株式の配当に関する事項

（イ）配当金の総額	141,228千円
（ロ）配当の原資	利益剰余金
（ハ）1株当たり配当額	7円50銭
（ニ）基準日	平成26年3月31日
（ホ）効力発生日	平成26年6月27日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）	当連結会計年度 （自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）
現金及び預金勘定	872,361千円	802,718千円
現金及び現金同等物	872,361	802,718

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備および事務機器(「機械装置及び運搬具」、「その他」)です。

(2) リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりです。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額および期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成25年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	4,344	4,344	-
その他	13,630	12,997	633
合計	17,974	17,341	633

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成26年3月31日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	-	-	-
その他	4,435	4,435	-
合計	4,435	4,435	-

(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しています。

未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	633	-
1年超	-	-
合計	633	-

(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しています。

支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額および減損損失

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
支払リース料	1,851	633
減価償却費相当額	1,851	633

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっています。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(貸主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	41,271	48,813
1年超	144,449	112,604
合計	185,720	161,418

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、余資運用等を行わず、必要な運転資金を、銀行借入や受取手形及び売掛金の債権の流動化により必要額を調達することとしています。

設備投資等の資金については、設備投資計画等に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達することとしています。

デリバティブ取引は、為替変動リスクおよび金利変動リスクを回避するために利用しており、投機目的のための取引は行わない方針です。

(2) 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されていますが、当該リスクに関して、社内規程に則り、主な取引先の信用調査、取引先別の期日管理および残高管理を行うことによりリスクの軽減を図っています。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する取引先の株式であり、定期的に把握された時価や損益等の状況を取締役が出席する定例会議で報告しています。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金は、1年以内の支払期日です。営業債務の一部には、通常の営業過程における輸出入取引に係る為替相場の変動リスクを最小限に抑えるために、為替予約取引を利用してヘッジしています。

借入金のうち短期借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達です。

デリバティブ取引の利用に当たっては信用度の高い商社・金融機関等を契約相手とすることで、信用リスクの軽減を図っています。デリバティブ取引に対する基本方針、取引権限、取引限度額、手続等を社内規程により管理しており、取引の実行は当該取引の担当部門が行っています。

また、取引の状況については、取締役が出席する定例会議で報告・検討しています。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格にもとづく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算出された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(4) 信用リスクの集中

当連結会計年度の連結決算日現在における営業債権のうち68.4%が特定の大口顧客に対するものです。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていません。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	872,361	872,361	-
(2)受取手形及び売掛金	12,020,777	12,020,777	-
(3)未収入金	1,733,985	1,733,985	-
(4)投資有価証券			
其他有価証券	8,738,552	8,738,552	-
資産計	23,365,677	23,365,677	-
(1)支払手形及び買掛金	11,947,596	11,947,596	-
(2)短期借入金	3,400,000	3,400,000	-
(3)1年内返済予定の長期借入金	1,340,000	1,340,000	-
(4)未払金	4,513,379	4,513,379	-
(5)未払法人税等	9,262	9,262	-
(6)長期借入金	1,560,000	1,549,119	10,880
負債計	22,770,238	22,759,357	10,880
デリバティブ取引()	190,505	190,505	-

()デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しています。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1)現金及び預金	802,718	802,718	-
(2)受取手形及び売掛金	15,578,650	15,578,650	-
(3)未収入金	2,433,136	2,433,136	-
(4)投資有価証券			
其他有価証券	4,800,493	4,800,493	-
資産計	23,614,999	23,614,999	-
(1)支払手形及び買掛金	11,601,283	11,601,283	-
(2)短期借入金	-	-	-
(3)1年内返済予定の長期借入金	280,000	280,000	-
(4)未払金	3,782,345	3,782,345	-
(5)未払法人税等	853,954	853,954	-
(6)長期借入金	2,910,000	2,912,130	2,130
負債計	19,427,583	19,429,714	2,130
デリバティブ取引()	(5,222)	(5,222)	-

()デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しています。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金、(3)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(4)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっています。また、有価証券に関する注記事項については、注記事項「有価証券関係」に記載しています。

負 債

(1)支払手形及び買掛金、(2)短期借入金、(3)1年内返済予定の長期借入金、(4)未払金、(5)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(6)長期借入金

元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しています。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」に記載しています。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式	88,750	88,304

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4)投資有価証券」には含めていません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	872,361	-	-	-
受取手形及び売掛金	12,020,777	-	-	-
未収入金	1,733,985	-	-	-
合計	14,627,124	-	-	-

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	802,718	-	-	-
受取手形及び売掛金	15,578,650	-	-	-
未収入金	2,433,136	-	-	-
合計	18,814,506	-	-	-

4. 短期借入金、長期借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（平成25年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	3,400,000	-	-	-	-	-
長期借入金	1,340,000	140,000	140,000	140,000	1,140,000	-
合計	4,740,000	140,000	140,000	140,000	1,140,000	-

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	280,000	280,000	280,000	1,280,000	1,070,000	-
合計	280,000	280,000	280,000	1,280,000	1,070,000	-

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	8,663,609	1,970,716	6,692,892
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	74,943	80,040	5,096
合計		8,738,552	2,050,756	6,687,795

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 88,750千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため「その他有価証券」には含めていません。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	4,739,634	1,616,497	3,123,136
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	60,858	69,114	8,255
合計		4,800,493	1,685,612	3,114,880

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 88,304千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため「その他有価証券」には含めていません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	1,500	101	-

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	3,102,620	2,723,503	3,748

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、減損処理を行った有価証券はありません。

当連結会計年度において、その他有価証券の株式3,854千円減損処理を行っています。

なお、減損処理に当たっては、時価のある有価証券については期末における時価が簿価に比べ30%以上下落した銘柄につき減損処理を行っています。また、時価のない有価証券については、期末における実質価額が著しく下落した銘柄につき減損処理を行っています。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(平成25年3月31日)

該当するものではありません。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

該当するものではありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成25年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル 英ポンド	買掛金等	3,377,117	-	190,666
			13,252	-	160
合計			3,390,369	-	190,505

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等にもとづき算定しています。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額等のうち1年超(千円)	時価(千円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引 買建 米ドル ユーロ	買掛金	4,955,047	-	5,255
			20,062	-	32
合計			4,975,109	-	5,222

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関から提示された価格等にもとづき算定しています。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は確定給付型の制度として企業年金(規約型)制度および退職慰労金支給規程にもとづく退職一時金制度ならびに確定拠出年金制度を設けています。

なお、連結子会社では、退職給付引当金の算定に簡便法を使用しています。

2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務(千円)	3,901,225
(2) 年金資産(千円)	2,678,248
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)(千円)	1,222,977
(4) 未認識数理計算上の差異(千円)	524,542
(5) 連結貸借対照表計上額純額(3)+(4)(千円)	698,435
(6) 退職給付引当金(5)(千円)	698,435

3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用(千円)(注)1	159,487
(2) 利息費用(千円)	65,573
(3) 期待運用収益(千円)	46,520
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	54,523
(5) その他(千円)(注)2	92,357
(6) 退職給付費用(1)+(2)+(3)+(4)+(5)(千円)	325,421

(注)1 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「(1)勤務費用」に計上しています。

2 「(5)その他」は確定拠出年金への掛金支払額です。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

- (1) 退職給付見込額の期間配分方法
期間定額基準
- (2) 割引率
1.2%
- (3) 期待運用収益率
2.0%
- (4) 過去勤務債務の額の処理年数
10年(定額法により、発生年度から費用処理することとしています。)
- (5) 数理計算上の差異の処理年数
10年(定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしています。)

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、確定給付型の制度として企業年金制度および退職一時金制度ならびに確定拠出制度を採用しています。なお、連結子会社では、退職給付債務の算定に簡便法を採用しています。

確定給付企業年金制度（すべて積立型制度です。）では、給与と勤務期間にもとづいた一時金又は年金を支給します。

退職一時金制度では、退職給付として、給与と勤務期間にもとづいた一時金を支給します。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

退職給付債務の期首残高	3,875,277千円
勤務費用	175,393
利息費用	46,466
数理計算上の差異の発生額	60,228
退職給付の支払額	123,992
退職給付債務の期末残高	3,912,916

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（簡便法を適用した制度を除く）

年金資産の期首残高	2,663,836千円
期待運用収益	31,966
数理計算上の差異の発生額	244,948
事業主からの拠出額	169,123
退職給付の支払額	121,909
年金資産の期末残高	2,987,965

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	11,537千円
退職給付費用	3,837
退職給付の支払額	947
退職給付に係る負債の期末残高	14,427

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	3,910,436千円
年金資産	2,987,965
	922,470
非積立型制度の退職給付債務	16,907
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	939,377
退職給付に係る負債	939,377
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	939,377

（注）簡便法を適用した制度を含みます。

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	175,393千円
利息費用	46,466
期待運用収益	31,966
数理計算上の差異の費用処理額	14,926
簡便法で計算した退職給付費用	3,837
確定給付制度に係る退職給付費用	208,656

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりです。

未認識数理計算上の差異	250,784千円
合 計	250,784

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりです。

債券	49.7%
株式	48.0
その他	2.3
合 計	100.0

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しています。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率 1.2%

長期期待運用収益率 1.2%

3. 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、84,862千円です。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却超過額等	1,134,703千円	1,032,657千円
繰越欠損金	1,032,146	660,763
退職給付引当金	243,518	-
退職給付に係る負債	-	256,254
役員退職慰労引当金	218,690	231,964
賞与引当金	123,096	123,584
その他	178,523	291,734
繰延税金資産小計	2,930,680	2,596,958
評価性引当額	2,753,318	2,354,911
繰延税金資産合計	177,361	242,046
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2,314,289	1,067,708
固定資産圧縮積立金	89,634	89,634
その他	70,887	-
繰延税金負債合計	2,474,811	1,157,343
繰延税金負債の純額	2,297,449	915,296

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれています。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	102,450千円	236,876千円
固定資産 - 繰延税金資産	4,023	5,169
固定負債 - 繰延税金負債	2,403,923	1,157,343

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	- %	37.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	1.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	1.4
評価性引当額の増減	-	12.0
住民税均等割	-	0.3
子会社からの受取配当金消去	-	0.9
持分法による投資損益	-	1.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	0.5
その他	-	2.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	23.5

(注) 前連結会計年度は、税金等調整前当期純損失を計上しているため、記載を省略しています。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これにともない、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.2%から34.8%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は15,893千円減少し、法人税等調整額は15,770千円増加しています。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

所有する建物の一部で使用されているアスベスト含有建材の除去費用につき資産除去債務を計上しています。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を8年と見積り、割引率は2.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しています。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
期首残高	16,140千円	16,463千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	322	329
資産除去債務の履行による減少額	-	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	16,463	16,792

(賃貸等不動産関係)

当社および一部の連結子会社では、静岡県およびその他の地域において、賃貸収益を得ることを目的として賃貸オフィスビルや賃貸倉庫、賃貸駐車場等を所有しています。なお、賃貸オフィスビルの一部については、当社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としています。

これら賃貸等不動産および賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額および時価は、次のとおりです。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
賃貸等不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	2,629,175	2,286,295
期中増減額	342,880	1,126,297
期末残高	2,286,295	1,159,997
期末時価	2,993,348	1,941,456
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
連結貸借対照表計上額		
期首残高	597,944	554,340
期中増減額	43,603	14,114
期末残高	554,340	540,226
期末時価	819,490	823,000

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額です。

2 賃貸等不動産の期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は自社使用からの転用(46,300千円)であり、主な減少額は自社使用への転用(189,001千円)および減損損失(202,301千円)です。
当連結会計年度の主な減少は不動産の売却(1,084,371千円)です。

3 期末時価は、主として社外の不動産鑑定士による「不動産調査報告書」にもとづく金額です。

また、賃貸等不動産および賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりです。

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
賃貸等不動産		
賃貸収益	144,783	150,400
賃貸費用	74,529	66,363
差額	70,253	84,037
その他(売却損益等)	202,301	609,441
賃貸等不動産として使用される部分を含む 不動産		
賃貸収益	41,879	46,249
賃貸費用	56,481	43,977
差額	14,601	2,271
その他(売却損益等)	-	-

(注) 1 「その他」については、前連結会計年度は減損損失であり、当連結会計年度は固定資産売却益です。

2 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、当社が使用している部分を含むため、当該部分の賃貸収益は計上されていません。なお、当該不動産に係る費用(減価償却費、修繕費、保険料、租税公課等)については、賃貸費用に含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、食品事業の単一セグメントのため、記載を省略しています。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、食品事業の単一セグメントであり、当該事業の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
伊藤忠商事(株)	21,312,868	食品事業
三菱商事(株)	13,999,568	食品事業
三井物産(株)	13,202,353	食品事業

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、食品事業の単一セグメントであり、当該事業の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%超であるため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
伊藤忠商事(株)	23,040,497	食品事業
三菱商事(株)	13,637,792	食品事業
三井物産(株)	11,756,938	食品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当社グループは、食品事業の単一セグメントのため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の非連結子会社および関連会社等

前連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	P.T. アネカ・ ツナ・ インドネ シア	インドネ シア国	25,000	缶詰等の製 造販売	(所有) 直接 33.00	製品等の製造 委託 役員の兼任、 出向	缶詰等の仕 入	4,650,855	買掛金	654,392

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	P.T. アネカ・ ツナ・ インドネ シア	インドネ シア国	25,000	缶詰等の製 造販売	(所有) 直接 33.00	製品等の製造 委託 役員の兼任、 出向	缶詰等の仕 入	4,624,542	買掛金	959,826

(注) 1 上記の金額のうち、取引金額には消費税等を含まず、期末残高には消費税等を含んで表示しています。

2 取引条件および取引条件の決定方針等

P.T.アネカ・ツナ・インドネシアとの取引については、伊藤忠商事㈱を經由して行っており、上記金額は伊藤忠商事㈱と当社の取引金額を記載しています。また、当該取引については、伊藤忠商事㈱より提示された見積価格を検討のうえ決定しています。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	1,044.46円	1,038.92円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期 純損失金額()	138.11円	137.16円

(注) 1 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額() (千円)	2,601,148	2,582,929
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損 失金額()(千円)	2,601,148	2,582,929
期中平均株式数(株)	18,833,491	18,831,608

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,400,000	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	1,340,000	280,000	0.82	-
1年以内に返済予定のリース債務	19,279	35,774	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,560,000	2,910,000	0.96	平成27年～30年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	41,676	151,203	-	平成27年～35年
その他有利子負債(長期預り金)	110,090	75,090	2.39	取引終了時
合計	6,471,046	3,452,068	-	-

(注) 1 平均利率については、借入金および営業保証金の当期末残高に対する加重平均利率を記載しています。

2 リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載していません。

3 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりです。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	280,000	280,000	1,280,000	1,070,000
リース債務	31,983	27,918	18,215	16,819

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しています。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	18,757,613	37,597,170	56,134,916	73,185,922
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(千円)	58,185	3,127,360	3,762,952	3,377,468
四半期(当期)純利益金額(千円)	56,098	2,352,194	3,228,487	2,582,929
1株当たり四半期(当期)純利益金額(円)	2.98	124.90	171.44	137.16

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	2.98	121.93	46.53	34.28

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	594,871	560,477
受取手形	4,640,024	6,013,204
売掛金	7,305,107	9,526,478
商品及び製品	5,823,985	4,563,439
仕掛品	19,404	15,177
原材料及び貯蔵品	1,415,143	988,389
前払費用	120,388	96,448
短期貸付金	415,852	313,131
未収入金	1,790,288	2,530,540
繰延税金資産	98,739	229,839
その他	210,351	21,344
貸倒引当金	141	475
流動資産合計	22,434,016	24,857,994
固定資産		
有形固定資産		
建物	11,032,528	11,018,824
減価償却累計額	6,808,463	7,102,872
建物(純額)	4,224,065	3,915,952
構築物	833,479	688,744
減価償却累計額	605,632	544,297
構築物(純額)	227,847	144,447
機械及び装置	8,309,999	7,230,009
減価償却累計額	6,029,644	6,372,161
機械及び装置(純額)	2,280,354	857,848
車両運搬具	20,129	18,183
減価償却累計額	16,126	17,625
車両運搬具(純額)	4,003	557
工具、器具及び備品	1,527,898	1,539,764
減価償却累計額	1,048,347	1,080,066
工具、器具及び備品(純額)	479,551	459,697
土地	3,685,649	2,642,280
リース資産	112,248	233,106
減価償却累計額	47,692	45,884
リース資産(純額)	64,555	187,222
建設仮勘定	13,230	5,673
有形固定資産合計	10,979,256	8,213,679
無形固定資産		
ソフトウェア	137,075	114,829
その他	216,270	345,482
無形固定資産合計	353,345	460,312

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	1 8,777,144	1 4,888,797
関係会社株式	5,503,148	5,319,392
出資金	24,613	24,613
従業員に対する長期貸付金	6,320	4,173
破産更生債権等	7,993	-
差入保証金	154,634	142,725
長期前払費用	2,719	1,509
その他	110,745	62,445
貸倒引当金	22,644	11,732
投資その他の資産合計	14,564,674	10,431,926
固定資産合計	25,897,276	19,105,918
資産合計	48,331,293	43,963,913
負債の部		
流動負債		
買掛金	2 12,773,039	2 12,448,442
短期借入金	1 3,400,000	-
1年内返済予定の長期借入金	1 1,340,000	1 280,000
リース債務	16,869	34,793
未払金	4,624,249	3,944,602
未払費用	181,124	174,641
未払法人税等	1,936	847,620
未払消費税等	223,839	343,227
前受金	7,924	8,436
預り金	19,961	19,573
売上割戻引当金	22,436	29,228
賞与引当金	253,636	276,235
その他	-	5,222
流動負債合計	22,865,017	18,412,025
固定負債		
長期借入金	1 1,560,000	1 2,910,000
リース債務	40,695	151,203
長期預り金	138,485	108,646
繰延税金負債	2,402,275	1,157,343
退職給付引当金	686,897	720,511
役員退職慰労引当金	585,083	626,993
資産除去債務	16,463	16,792
その他	-	33,202
固定負債合計	5,429,900	5,724,693
負債合計	28,294,917	24,136,719

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,441,669	1,441,669
資本剰余金		
資本準備金	942,292	942,292
その他資本剰余金	136	136
資本剰余金合計	942,429	942,429
利益剰余金		
利益準備金	360,417	360,417
その他利益剰余金		
配当引当積立金	1,000,000	1,000,000
固定資産圧縮積立金	167,639	167,639
新市場開拓準備金	200,000	200,000
別途積立金	12,000,000	12,000,000
繰越利益剰余金	1,583,333	3,819,105
利益剰余金合計	15,311,390	17,547,163
自己株式	2,149,064	2,151,690
株主資本合計	15,546,424	17,779,571
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,370,331	2,051,025
繰延ヘッジ損益	119,618	3,403
評価・換算差額等合計	4,489,950	2,047,622
純資産合計	20,036,375	19,827,194
負債純資産合計	48,331,293	43,963,913

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高		
製品売上高	71,727,242	71,434,292
その他の売上高	187,449	172,139
売上高合計	71,914,692	71,606,431
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	5,403,002	5,414,594
当期製品製造原価	16,986,046	17,121,151
当期製品仕入高	32,242,575	31,299,319
合計	54,631,624	53,835,065
製品他勘定振替高	3 77,968	3 360,368
製品期末たな卸高	5,414,594	4,269,500
たな卸資産廃棄損	16,330	22,200
製品売上原価	49,155,391	49,227,397
その他の売上原価	128,681	79,366
売上原価合計	2 49,284,072	2 49,306,763
売上総利益	22,630,620	22,299,667
販売費及び一般管理費		
販売奨励金	16,063,216	14,774,343
荷造運賃	1,944,982	1,876,169
広告宣伝費	761,021	254,818
保管料	780,047	723,037
役員報酬	235,500	195,165
給料及び手当	1,379,665	1,205,511
賞与	176,609	185,737
賞与引当金繰入額	165,256	180,225
役員退職慰労引当金繰入額	40,868	41,910
法定福利費	288,593	278,713
退職給付費用	185,666	175,029
交際費	110,135	95,823
旅費及び交通費	296,964	255,173
通信費	117,932	112,208
租税公課	83,532	98,364
賃借料	416,756	395,519
減価償却費	248,595	198,799
研究開発費	4 239,244	4 180,933
その他	738,601	632,278
販売費及び一般管理費合計	24,273,193	21,859,763
営業利益又は営業損失()	1,642,573	439,904

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業外収益		
受取利息	4,457	1,125
受取配当金	1 250,088	1 279,818
仕入割引	38,568	37,589
賃貸料収入	77,789	81,214
受取手数料	333,099	284,203
その他	84,875	57,169
営業外収益合計	788,879	741,121
営業外費用		
支払利息	45,601	44,092
売上債権売却損	16,458	13,266
賃貸収入原価	70,320	68,617
その他	20,925	9,826
営業外費用合計	153,304	135,802
経常利益又は経常損失()	1,006,998	1,045,223
特別利益		
固定資産売却益	5 854	5 609,516
投資有価証券売却益	101	2,717,337
補助金収入	174,035	-
受取補償金	10,582	6 227,455
特別利益合計	185,573	3,554,310
特別損失		
貸倒引当金繰入額	2,519	-
固定資産除却損	7 37,759	7 14,627
固定資産売却損	-	8 901
投資有価証券評価損	-	3,854
関係会社株式評価損	-	183,755
ゴルフ会員権売却損	-	1,000
減損損失	9 282,133	9 1,056,088
固定資産撤去費用	-	33,202
工場休止関連費用	10 191,271	-
特別損失合計	513,683	1,293,428
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	1,335,108	3,306,104
法人税、住民税及び事業税	6,615	846,242
法人税等調整額	477,437	58,392
法人税等合計	484,052	787,849
当期純利益又は当期純損失()	1,819,161	2,518,255

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)		当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	8,775,819	51.0	8,761,458	51.5
労務費		1,047,513	6.1	1,089,221	6.4
外注加工費		856,710	5.0	789,469	4.7
経費		1,787,440	10.4	1,704,164	10.0
自家製品製造費用		12,467,485		12,344,313	
半製品仕入高		4,741,111	27.5	4,666,472	27.4
当期総製造費用		17,208,596	100.0	17,010,785	100.0
期首半製品・仕掛品棚卸高		206,307		428,794	
合計		17,414,904		17,439,579	
期末半製品・仕掛品棚卸高		428,794		309,116	
半製品他勘定振替高	2	63		9,311	
当期製品製造原価		16,986,046		17,121,151	

原価計算の方法

缶詰製品等について工程別総合原価計算を行っています。

なお、原価差額は期末において売上原価とたな卸資産に配賦しています。

(注) 1 経費の主な内訳

項目	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
減価償却費(千円)	849,537	769,777
修繕費(千円)	163,400	121,539
水道光熱費(千円)	373,466	412,698

2 半製品他勘定振替高の内訳

項目	前事業年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
未収金(千円)	-	9,311
その他(千円)	63	-
合計(千円)	63	9,311

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			
						配当引当積立金	固定資産圧縮積立金	新市場開拓準備金	別途積立金
当期首残高	1,441,669	942,292	219	942,512	360,417	1,000,000	167,639	200,000	12,000,000
当期変動額									
剰余金の配当									
当期純損失（ ）									
自己株式の取得									
自己株式の処分			82	82					
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	82	82	-	-	-	-	-
当期末残高	1,441,669	942,292	136	942,429	360,417	1,000,000	167,639	200,000	12,000,000

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計						
	繰越利益剰余金							
当期首残高	3,685,003	17,413,060	2,147,889	17,649,352	3,727,057	31,293	3,758,350	21,407,703
当期変動額								
剰余金の配当	282,508	282,508		282,508				282,508
当期純損失（ ）	1,819,161	1,819,161		1,819,161				1,819,161
自己株式の取得			2,238	2,238				2,238
自己株式の処分			1,063	981				981
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					643,274	88,325	731,599	731,599
当期変動額合計	2,101,670	2,101,670	1,174	2,102,927	643,274	88,325	731,599	1,371,328
当期末残高	1,583,333	15,311,390	2,149,064	15,546,424	4,370,331	119,618	4,489,950	20,036,375

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			
						配当引当積立金	固定資産圧縮積立金	新市場開拓準備金	別途積立金
当期首残高	1,441,669	942,292	136	942,429	360,417	1,000,000	167,639	200,000	12,000,000
当期変動額									
剰余金の配当									
当期純利益									
自己株式の取得									
自己株式の処分									
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	-	-
当期末残高	1,441,669	942,292	136	942,429	360,417	1,000,000	167,639	200,000	12,000,000

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計						
	繰越利益剰余金							
当期首残高	1,583,333	15,311,390	2,149,064	15,546,424	4,370,331	119,618	4,489,950	20,036,375
当期変動額								
剰余金の配当	282,483	282,483		282,483				282,483
当期純利益	2,518,255	2,518,255		2,518,255				2,518,255
自己株式の取得			2,625	2,625				2,625
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					2,319,305	123,021	2,442,327	2,442,327
当期変動額合計	2,235,772	2,235,772	2,625	2,233,146	2,319,305	123,021	2,442,327	209,180
当期末残高	3,819,105	17,547,163	2,151,690	17,779,571	2,051,025	3,403	2,047,622	19,827,194

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準および評価方法

(1) 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等にもとづく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. デリバティブ等の評価基準および評価方法

デリバティブ

時価法

3. たな卸資産の評価基準および評価方法

製品・仕掛品・原材料

月次総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法により算定)

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物付属設備を除く)については定額法)を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 10~50年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しています。ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)にもとづく定額法を採用しています。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

5. 外貨建の資産および負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

(2) 売上割戻引当金

売上割戻金の支払いに備えるため、売上高の一定割合を計上しています。

(3) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しています。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額にもとづき計上しています。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を費用処理することとしています。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしています。

(5) 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規にもとづく期末要支給額を計上しています。

7. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約については振当処理を採用しています。なお、外貨建予定取引をヘッジ対象とする為替予約の振当処理については、期末日において為替予約を時価評価したことによる評価差額を貸借対照表に計上しています。

また、金利スワップについては特例処理を採用しています。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約、金利スワップ

ヘッジ対象...外貨建金銭債権債務および予定取引、借入金

(3) ヘッジ方針

社内規程に定めた基本方針、取引権限、取引限度額、手続等にもとづき、為替変動リスクおよび金利変動リスクをヘッジしています。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

為替予約については、すべて製品等の購入予定にもとづくもので、キャッシュ・フローを固定化するものであり、有効性の評価を省略しています。

金利スワップについては、特例処理の要件を満たしていますので、有効性の評価を省略しています。

8. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

(表示方法の変更)

以下の事項について、記載を省略しています。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しています。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しています。

(貸借対照表関係)

1 担保資産および担保付債務

担保資産

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	363,833千円	339,622千円
土地	586,715	586,715
投資有価証券	491,310	466,744
計	1,441,859	1,393,082

担保付債務

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	2,500,000千円	- 千円
1年内返済予定の長期借入金	1,340,000	280,000
長期借入金	1,560,000	2,910,000
計	5,400,000	3,190,000

2 関係会社に対する資産および負債

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
買掛金	1,996,658千円	買掛金 2,041,912千円

当事業年度において、上記以外の関係会社に対する資産の合計額が資産総額の100分の1を超えており、その金額は777,582千円です。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれています。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
関係会社からの受取配当金	64,188千円	81,968千円

2 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれています。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	189,977千円	87,892千円

3 製品他勘定振替高の内訳

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
未収入金	4,845千円	298,316千円
販売費	67,804	58,103
営業外費用	3,512	2,808
その他	1,807	1,139
計	77,968	360,368

4 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
	239,244千円	180,933千円

研究開発費はすべて一般管理費に計上しています。

5 固定資産売却益の内訳

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械及び装置	124千円	55千円
工具、器具及び備品	729	19
土地	-	609,441
計	854	609,516

6 受取補償金

当事業年度において、当社は平成25年10月より缶詰製品「シーチキンマイルド」シリーズの一部を自主回収しています。

当該製品の自主回収にともない、当社仕入先との合意にもとづく逸失利益相当額を受取補償金に計上していません。

7 固定資産除却損の内訳

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物	17,173千円	1,534千円
構築物	27	2,735
機械及び装置	20,351	7,298
工具、器具及び備品	207	0
リース資産	-	2,159
建設仮勘定	-	900
計	37,759	14,627

8 固定資産売却損の内訳

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
機械及び装置	- 千円	901千円

9 減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
静岡県焼津市	事業用地	土地	202,301
静岡県焼津市	包装米飯製品製造工場	建物、構築物 機械及び装置、土地	79,832
計			282,133

事業用資産については主として管理会計上の事業区分にもとづく製品群をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、また、重要な賃貸資産および遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行い、上記資産グループについて減損損失を計上しています。

事業用地については、地価が著しく下落しているため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価額により評価しています。

包装米飯製品製造工場については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(建物14,560千円、構築物1,499千円、機械及び装置49,633千円、土地14,138千円)として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、不動産鑑定評価額により評価しています。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
静岡市清水区	パスタ製品製造工場	構築物、機械及び装置、車両運搬具、工具、器具及び備品、リース資産	1,007,079
静岡県焼津市	包装米飯製品製造工場	機械及び装置、土地	49,009
計			1,056,088

事業用資産については主として管理会計上の事業区分にもとづく製品群をキャッシュ・フローを生み出す最小の単位として、また、重要な賃貸資産および遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行い、上記資産グループについて減損損失を計上しています。

パスタ製品製造工場については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（構築物12,469千円、機械及び装置983,801千円、車両運搬具1,946千円、工具、器具及び備品2,393千円、リース資産6,467千円）として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は使用価値を使用し、将来キャッシュ・フローを2.2%で割り引いて算定しています。

包装米飯製品製造工場については、収益性が低下したことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（機械及び装置28,008千円、土地21,001千円）として特別損失に計上しています。なお、回収可能価額は正味売却価額を使用し、社外の不動産鑑定士による「不動産調査報告書」にもとづく金額で評価しています。

10 工場休止関連費用

前事業年度において、焼津プラントの将来的な安定生産の継続を目的とした建物設備等の改修工事および生産性の向上を目的とした製造ラインの集約化工事を実施しました。

当該プラントの一時操業停止にともなう固定費相当額等を特別損失に計上しています。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

自己株式の種類および株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式 (注)	1,816,785	2,000	900	1,817,885
合計	1,816,785	2,000	900	1,817,885

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,000株は、単元未満株式の買取請求による増加2,000株です。普通株式の自己株式の株式数の減少900株は、単元未満株式の買増請求による減少900株です。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

自己株式の種類および株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
普通株式 (注)	1,817,885	2,417	-	1,820,302
合計	1,817,885	2,417	-	1,820,302

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加2,417株は、単元未満株式の買取請求による増加2,417株です。

(有価証券関係)

子会社株式および関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式4,298,462千円、関連会社株式1,020,930千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式4,482,218千円、関連会社株式1,020,930千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載していません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
減価償却超過額等	849,620千円	732,780千円
繰越欠損金	402,008	-
退職給付引当金	239,315	251,026
役員退職慰労引当金	203,843	218,444
賞与引当金	94,377	95,960
関係会社株式評価損	-	64,020
未払事業税	1,939	63,288
割戻配賦	44,674	33,162
投資有価証券評価損	41,935	40,912
法定福利費	12,995	13,476
固定資産撤去費用	-	11,567
売上割戻引当金	8,348	10,183
その他	49,378	35,261
繰延税金資産小計	1,948,436	1,570,085
評価性引当額	1,778,810	1,340,246
繰延税金資産合計	169,626	229,839
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	2,312,640	1,067,708
固定資産圧縮積立金	89,634	89,634
その他	70,887	-
繰延税金負債合計	2,473,162	1,157,343
繰延税金負債の純額	2,303,535	927,503

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	- %	37.2%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	-	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	-	1.5
評価性引当額の増減	-	14.1
住民税均等割	-	0.2
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	-	0.5
その他	-	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	-	23.8

(注) 前事業年度は、税引前当期純損失を計上しているため、記載を省略しています。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これにともない、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の37.2%から34.8%になります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は15,634千円減少し、法人税等調整額は15,551千円増加しています。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	1,063.91円	1,052.93円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	96.59円	133.72円

(注) 1. 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。なお、前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額() (千円)	1,819,161	2,518,255
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	1,819,161	2,518,255
期中平均株式数(株)	18,833,491	18,831,608

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

株式

		銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
投資 有価証券	その他 有価証券	(株)静岡銀行	2,317,625	2,333,848
		三菱商事(株)	302,000	578,632
		三井物産(株)	307,000	447,913
		伊藤忠商事(株)	305,000	367,830
		伊藤忠食品(株)	87,100	307,027
		(株)トーカン	67,991	139,519
		(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	223,100	126,497
		(株)セブン&アイ・ホールディングス	27,793	109,615
		加藤産業(株)	25,000	54,875
		(株)いなげや	41,645	42,770
		(株)マルイチ産商	48,092	41,119
		(株)清水銀行	9,300	24,924
		静岡エフエム放送(株)	3,800	24,600
		イズミヤ(株)	43,201	22,378
		(株)オークワ	23,145	21,294
		ヤマエ久野(株)	20,543	19,085
		東洋製罐グループホールディングス(株)	11,000	18,436
		赤城食品(株)	6,000	18,000
		ユニ・チャーム(株)	3,000	16,539
		日東富士製粉(株)	48,100	15,343
		その他59銘柄	195,805	158,548
計			4,116,245	4,888,797

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首 残高 (千円)	当期 増加額 (千円)	当期 減少額 (千円)	当期末 残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期 償却額 (千円)	差引 当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	11,032,528	18,230	31,934	11,018,824	7,102,872	324,809	3,915,952
構築物	833,479	2,264	146,999 (12,469)	688,744	544,297	31,870	144,447
機械及び装置	8,309,999	155,044	1,235,034 (1,011,810)	7,230,009	6,372,161	558,441	857,848
車両運搬具	20,129	-	1,946 (1,946)	18,183	17,625	1,498	557
工具、器具及び備品	1,527,898	25,941	14,076 (2,393)	1,539,764	1,080,066	43,402	459,697
土地	3,685,649	17,945	1,061,314 (21,001)	2,642,280	-	-	2,642,280
リース資産	112,248	157,146	36,287 (6,467)	233,106	45,884	25,852	187,222
建設仮勘定	13,230	17,829	25,385	5,673	-	-	5,673
有形固定資産計	25,535,162	394,404	2,552,980 (1,056,088)	23,376,586	15,162,907	985,875	8,213,679
無形固定資産							
ソフトウェア	1,237,136	28,601	268	1,265,469	1,150,640	50,847	114,829
その他	582,088	170,315	8,919	743,483	398,001	32,183	345,482
無形固定資産計	1,819,224	198,917	9,187	2,008,953	1,548,641	83,030	460,312
長期前払費用	2,719	2,024	3,233	1,509	-	-	1,509
繰延資産							
-	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期減少額のうち主なものは次のとおりです。

機械及び装置 減損損失 1,011,810千円

土地 事業用地の売却 1,040,313千円

2. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額です。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	22,785	12,207	7,653	15,132	12,207
売上割戻引当金	22,436	29,228	22,436	-	29,228
賞与引当金	253,636	276,235	253,636	-	276,235
役員退職慰労引当金	585,083	41,910	-	-	626,993

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額です。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しています。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り および買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料および 買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告による。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URLは次のとおりです。 http://www.hagoromofoods.co.jp/
株主に対する特典	毎年3月31日、9月30日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上保有の株主に対し、一律に参考小売価格3,000円相当の当社製品を贈呈。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、取得請求権付株式の取得を請求する権利、募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の買増し請求をする権利以外の権利を行使することができません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しています。

(1)有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書

事業年度 第84期（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）平成25年6月27日東海財務局長に提出。

(2)内部統制報告書およびその添付書類

平成25年6月27日東海財務局長に提出。

(3)四半期報告書および確認書

第85期第1四半期（自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日）平成25年8月12日東海財務局長に提出。

第85期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）平成25年11月13日東海財務局長に提出。

第85期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）平成26年2月14日東海財務局長に提出。

(4)臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定にもとづく臨時報告書

平成25年6月28日東海財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号（財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）の規定にもとづく臨時報告書

平成25年10月2日東海財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号（財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）の規定にもとづく臨時報告書

平成25年12月12日東海財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号（財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象）の規定にもとづく臨時報告書

平成26年4月17日東海財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年 6 月26日

はごろもフーズ株式会社

取締役会 御中

監査法人双研社

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木本 恵輔

代表社員
業務執行社員 公認会計士 貴志 豊

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているはごろもフーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、はごろもフーズ株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、はごろもフーズ株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、はごろもフーズ株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6 月26日

はごろもフーズ株式会社

取締役会 御中

監査法人双研社

代表社員
業務執行社員 公認会計士 木本 恵輔

代表社員
業務執行社員 公認会計士 貴志 豊

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているはごろもフーズ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第85期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、はごろもフーズ株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。